

西宮市 標準構造図

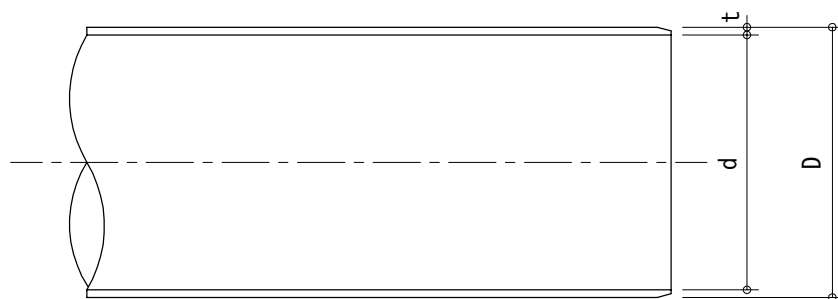
- 下水道編 -

令和5年4月
西宮市 下水道部

西宮市標準構造図集番号対比表(2023.4.1改訂)		
【 下 水 道 編 】		
コード番号	名 称	掲載タイプ
G001	下水道用硬質塩化ビニル管(直管)標準構造図	
G002	下水道用リブ付硬質塩化ビニル管(直管)標準構造図	
G003	下水道用強化プラスチック複合管 C型(直管)標準構造図	
G004	埋設標識シート標準図	W=150mm
G005	硬質塩化ビニル管砂基礎構造図	
G006	下水道用リブ付硬質塩化ビニル管砂基礎(施工支承角90°)構造図	
G007	下水道用強化プラスチック複合管砂基礎(施工支承角90°)構造図	
G008	内副管標準構造図(1)	
G009	内副管標準構造図(2)	(半割管)
G010	外副管標準構造図(1)	(新設人孔用)
G011	外副管標準構造図(2)	(既設人孔用)
G012	1号組立人孔標準構造図	
G013	2号組立人孔標準構造図	
G014	3号組立人孔標準構造図	
G015	楕円組立人孔標準構造図	
G016	点検口標準構造図	
G017	人孔蓋標準構造図(一般型)T-14 参考図	
G018	人孔蓋標準構造図(耐スリップ型)T-14 参考図	
G019	人孔蓋標準構造図(耐スリップ型)T-25 参考図	
G020	人孔蓋標準構造図(高性能型)T-25 参考図	
G021	人孔蓋標準構造図(小口径耐スリップ型)T-25 参考図	
G022	人孔蓋据付参考図	
G023	インバート工標準構造図	
G024	足掛金物設置標準構造図	
G025	公共樹及び公共樹取付管標準構造図	
G026	公共樹及び公共樹取付管標準構造図(耐震性)	
G027	取付管撤去標準構造図	
G028	公共樹蓋標準構造図(一般・圧力開放型)参考図	
G029	公共樹蓋標準構造図(保護鉄蓋)参考図	
G030	公共樹蓋及び公共樹標準構造図(特定樹)	
G031	公共樹取付管等標準布設図(1)	
G032	公共樹取付管等標準布設図(2)	合流区域
G033	軽量鋼矢板土留工標準図	

下水道用硬質塩化ビニル管(直管)標準構造図

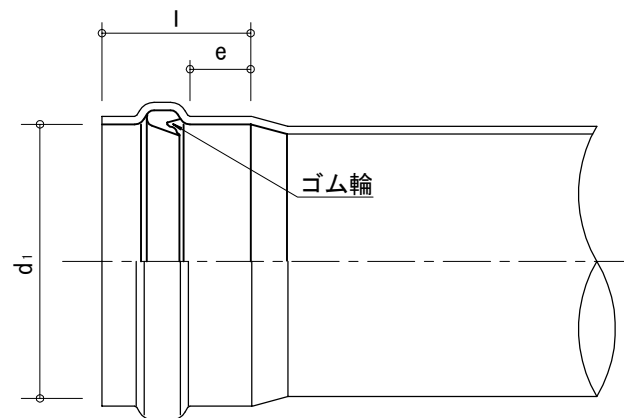
直管部(共通)



(単位: mm)

呼び径	外径	厚さ	近似内径 d	1m当たりの重量 (kg)
	D	t (最小)		
125	140	4.1	131	2.739
150	165	5.1	154	3.941
200	216	6.5	202	6.572
250	267	7.8	250	9.758
300	318	9.2	298	13.701
350	370	10.5	348	18.051
400	420	11.8	395	23.059
450	470	13.2	442	28.875
500	520	14.6	489	35.346
600	630	17.8	592	52.679

受口部



(単位: mm)

呼び径	受口内径 d ₁ (最小)	接合長さ e (最小)	受口長さ l (最大)
125	140.6	44	155
150	165.7	53	165
200	216.9	54	185
250	268.1	59	205
300	319.3	62	225
350	371.5	67	240
400	421.7	72	260
450	471.9	77	285
500	522.1	82	305
600	633.8	93	355

[JSWAS K-1]

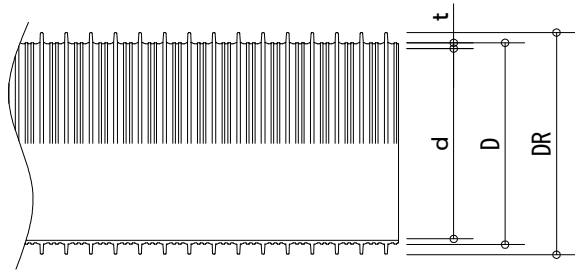
※プレーンエンド直管を除く。

- 注1. 表中1m当たりの質量は、比重1.43g/cm³で算出したものである。
 注2. 本図に記載のない事項は、日本下水道協会規格【JSWAS K-1】に準拠する。
 注3. 埋設標識シートを敷設すること。

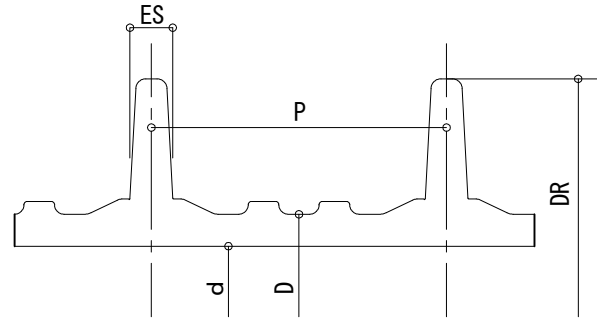
図名	下水道用硬質塩化ビニル管(直管)標準構造図	制定	2013.6
		改訂	2022.6

下水道用リブ付硬質塩化ビニル管(直管)標準構造図

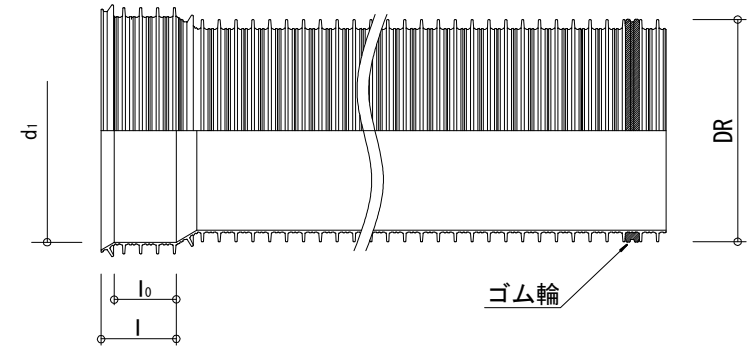
一般図



詳細図



差し口部及び受口部



(単位: mm)

呼び径	外径 D	リブ外径 DR	リブ高さ HR	リブ幅 ES	リブ間隔 P	厚さ t (最小)	近似内径 d	1 m当たりの重量 (kg)
150	155.5	171.0	7.7	3.1	19.1	2.4	150	3.000
200	205.5	228.8	11.6	3.6	25.4	2.4	200	4.350
250	256.1	286.2	15.0	4.4	30.5	2.7	250	6.380
300	307.1	343.6	18.2	5.4	38.1	3.0	300	9.020
350	357.4	400.6	21.6	5.9	38.1	3.1	350	12.030
400	407.6	448.4	20.4	5.8	38.1	3.3	400	13.860
450	457.8	502.0	22.1	6.8	38.1	3.5	450	17.360

(単位: mm)

呼び径	差し口部		受口部		
	リブ外径 DR (標準値)	受口内径 di (最小)	平行部長さ lo (最小)	受口長さ l (標準値)	接合長さ e (参考)
150	171.0	171.7	90	100	61.3
200	228.8	229.7	100	115	61.9
250	286.2	287.3	115	140	69.2
300	343.6	344.9	135	170	77.8
350	400.6	402.1	135	170	77.8
400	448.4	450.2	135	170	77.8
450	502.0	504.0	135	170	77.8

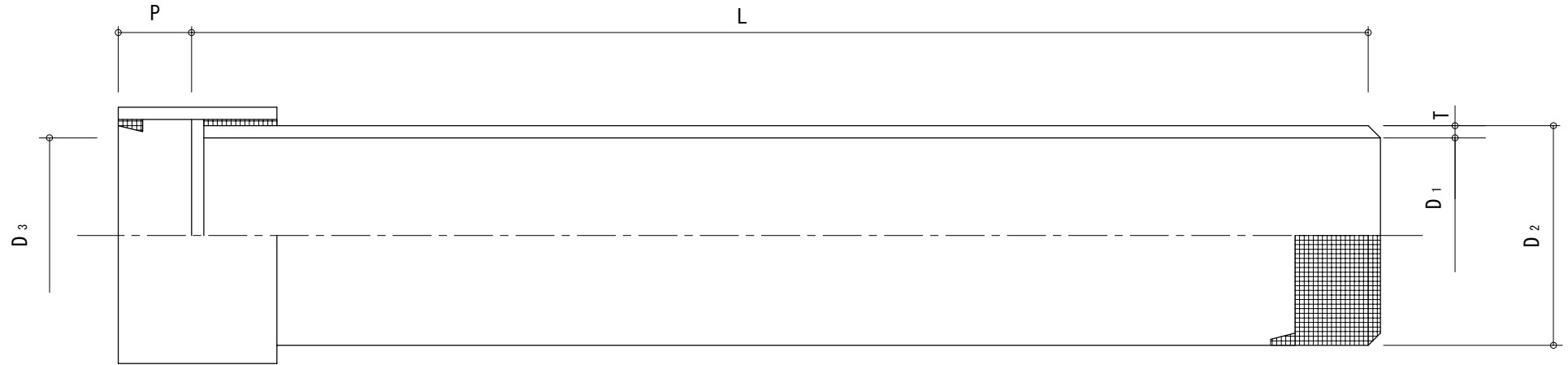
[JSWAS K-13]

- 注1. 表中1m当たりの質量は、比重1.43g/cm³で算出したものである。
- 注2. 接合長さeは、平行部長さl (最小) - (1.5 × リブ間隔P) として算出したものである。
- 注3. 本図に記載のない事項は、日本下水道協会規格【JSWAS K-13】に準拠する。
- 注4. 埋設標識シートを敷設すること。

図名	下水道用リブ付硬質塩化ビニル管(直管) 標準構造図	制定	2022.6
		改訂	-

下水道用強化プラスチック複合管 C型（直管）標準構造図

下水道用C型直管



(単位：mm)

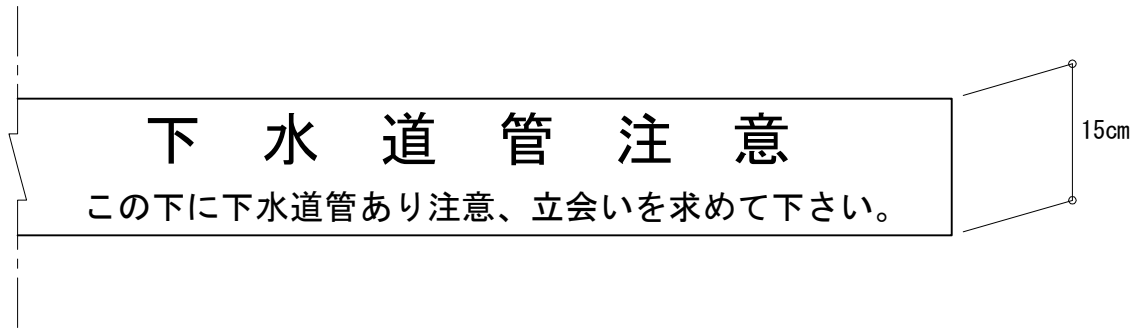
呼び径	厚さ T	有効長 L	直管部内径 D1	挿口部外径 D2	受口部内径 D3	受口部長さ P
200	7.0	4000	200	217	218.5	140
250	7.5		250	268	269.5	
300	8.0		300	319	320.5	
350	8.5		350	370	371.5	150
400	9.0		400	421	422.5	
450	9.5		450	472	473.5	160
500	10.0		500	523	524.5	
600	12.0		600	627	628.5	
700	14.0		700	731	732.5	
800	16.0		800	835	836.5	220
900	18.0		900	939	940.5	
1000	20.0		1000	1043	1044.5	
1100	22.0		1100	1147	1148.5	
1200	24.0		1200	1251	1252.5	
1350	27.0		1350	1407	1408.5	250
1500	30.0		1500	1563	1564.5	
1650	33.0		1650	1721	1722.5	300
1800	36.0		1800	1877	1878.5	
2000	40.0	2000	2085	2086.5	330	

[JSWAS K-2]

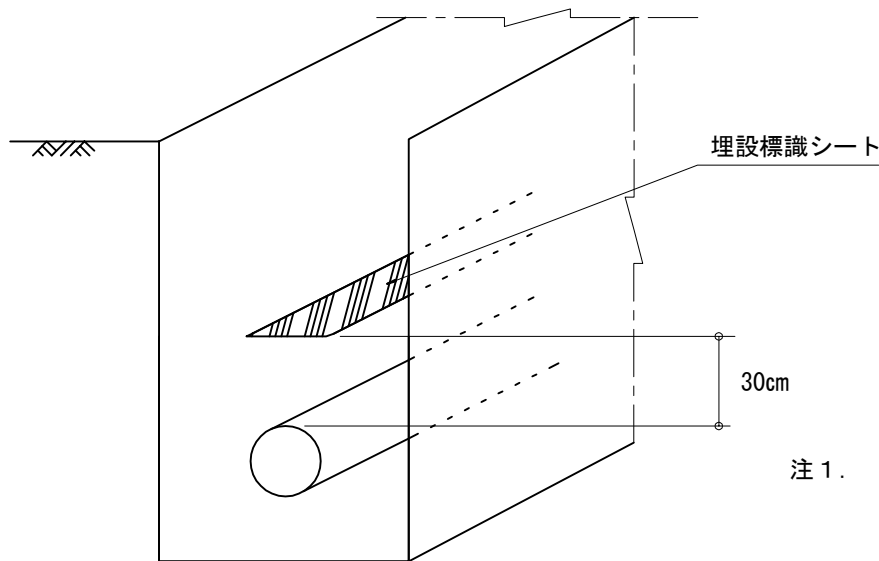
- 注 1. 本図に記載のない事項は、日本下水道協会規格【JSWAS K-2】に準拠する。
 注 2. 埋設標識シートを敷設すること。

図名	下水道用強化プラスチック複合管 C型（直管）標準構造図	制定	2013. 6
		改訂	2022. 6

埋設標識シート標準図



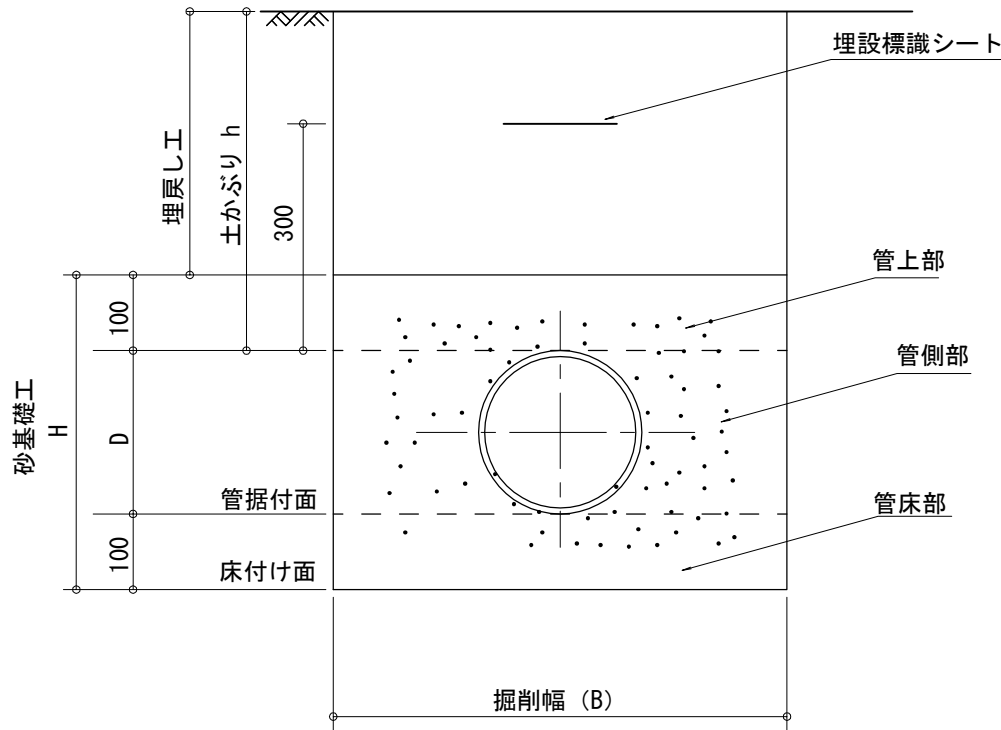
二重折込式
 地色：茶色
 文字：白色



注1. 埋設標識シートの敷設位置は管頂より上部30cmの位置を標準とするが、管頂より上部30cmの位置がアスファルト合材または路盤砕石内の場合、路盤砕石下とする。

図名	埋設標識シート標準図	制定	2022.6
		改訂	-

硬質塩化ビニル管砂基礎構造図



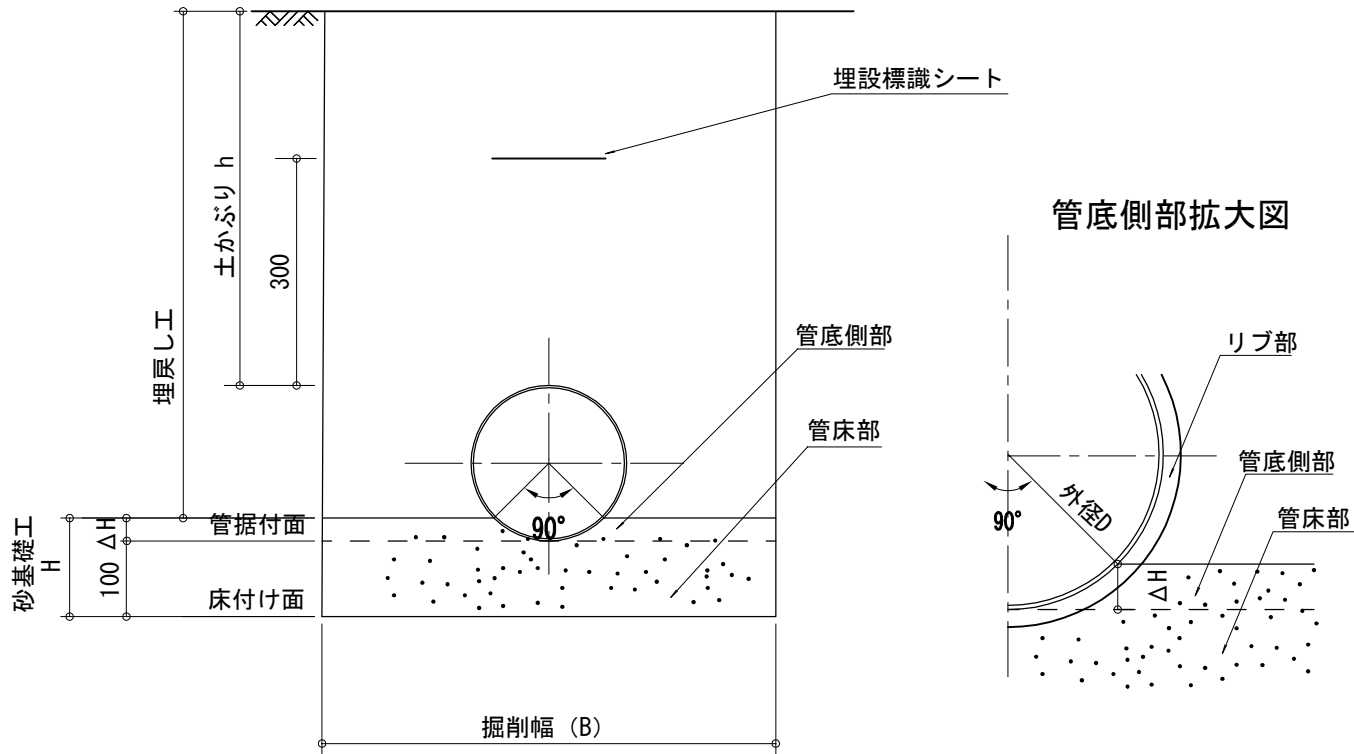
(単位 : mm)

呼び径	D (外径)	H
200	216	416
250	267	467
300	318	518
350	370	570
400	420	620
450	470	670
500	520	720
600	630	830

- 注 1. 施工支承角は原則として360°とする。
- 注 2. 土かぶりhは4.0m以下とする。
ただし、これは[活荷重]T-25の後輪荷重100kN、[埋戻し土の単位体積質量]18kN/m³の計算条件によるものであり、
また、管径によっては、これ以上の土かぶりhにおいても使用できる場合もあることから、
他の条件において使用する場合は、別途設計計算を行い、施工条件下における最大曲げ応力 σ_{max} およびたわみ率Vが、
JSWAS K-1における許容値（許容曲げ応力 $\sigma_a=17.7\text{MPa (N/mm}^2)$ 、許容たわみ率 $V_a=5(\%)$ ）を上回らないことを確認すること。
- 注 3. 再生砂を使用する場合は、六価クロム溶出試験を実施すること。

図名	硬質塩化ビニル管砂基礎構造図	制定	2013.6
		改訂	2022.6

下水道用リブ付硬質塩化ビニル管砂基礎（施工支承角90°）構造図



(単位：mm)

注1. 砂基礎工の寸法・土かぶりは下水道用リブ付き硬質塩化ビニル管の詳細図における「外径D」を基準としたものである。

注2. 土かぶりhは4.0m以下※とする。

ただし、これは[活荷重]T-25の後輪荷重100kN、[埋戻し土の単位体積質量]18kN/m³の計算条件によるものであり、また、管径によっては、これ以上の土かぶりhにおいても使用できる場合もあることから、他の条件において使用する場合は、別途設計計算を行い、施工条件下における最大曲げ応力σ_{max}およびたわみ率Vが、JSWAS K-13における許容値（許容曲げ応力σ_a=17.7MPa(N/mm²）、許容たわみ率V_a=4(%)）を上回らないことを確認すること。

（※ 施工支承角180° の場合は、土かぶりhは5.0m以下
 施工支承角360° の場合は、土かぶりhは6.0m以下）

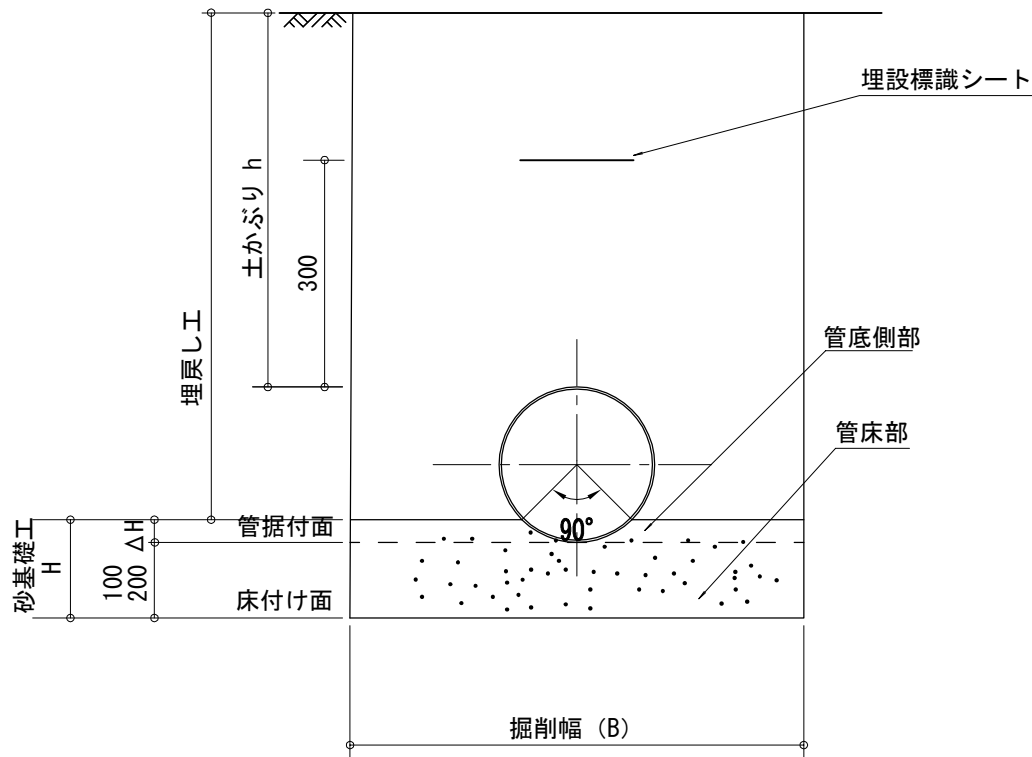
注3. 地下水位が高い地盤等において基礎材に砕石を用いる場合は、別途検討を行うこと。

注4. 再生砂を使用する場合は、六価クロム溶出試験を実施すること。

呼び径	D (外径)	ΔH	H
150	155.5	23	123
200	205.5	30	130
250	256.1	38	138
300	307.1	45	145
350	357.4	52	152
400	407.6	60	160
450	457.8	67	167

図名	下水道用リブ付硬質塩化ビニル管砂基礎 (施工支承角90°) 構造図	制定	2022.6
		改訂	-

下水道用強化プラスチック複合管砂基礎（施工支承角90°）構造図



(単位：mm)

呼び径	D (外径)	ΔH	H
200	217	32	132
250	268	39	139
300	319	47	147
350	370	54	154
400	421	62	162
450	472	69	169
500	523	77	177
600	627	92	192
700	731	107	207
800	835	122	222
900	939	138	238
1000	1043	153	253
1100	1147	168	368
1200	1251	183	383
1350	1407	206	406
1500	1563	229	429
1650	1721	252	452
1800	1877	275	475
2000	2085	305	505

注1. 土かぶりhは、1種管においては4.5m以下※、2種管においては2.5m以下※とする。
 ただし、これは[活荷重]T-25の後輪荷重100kN、[埋戻し土の単位体積質量]18kN/m³の計算条件によるものであり、
 また、管径によっては、これ以上の土かぶりhにおいても使用できる場合もあることから、
 他の条件において使用する場合は、別途設計計算を行い、施工条件下における最大曲げ応力σ_{max}およびたわみ率Vが、
 JSWAS K-2における許容曲げ応力、許容たわみ率を上回らないことを確認すること。

(※ 施工支承角180° の場合は、土かぶりhは、1種管においては5.5m以下、2種管においては3.5m以下
 施工支承角360° の場合は、土かぶりhは、1種管においては6.5m以下、2種管においては4.0m以下)

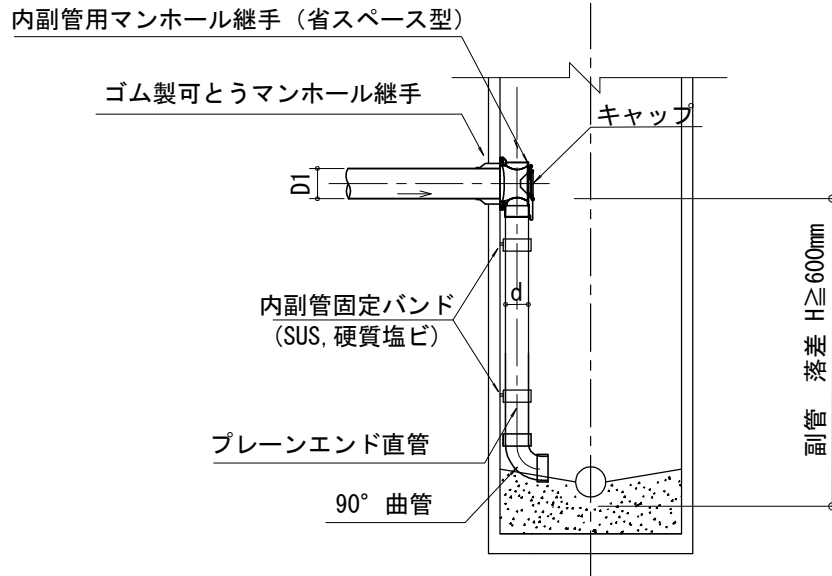
注2. 地下水位が高い地盤等において基礎材に砕石を用いる場合は、別途検討を行うこと。

注3. 再生砂を使用する場合は、六価クロム溶出試験を実施すること。

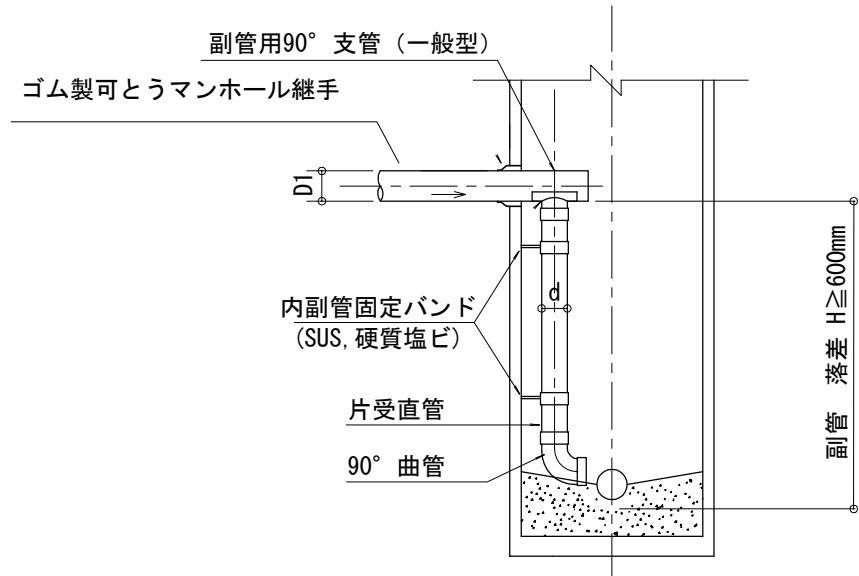
図名	下水道用強化プラスチック複合管砂基礎 (施工支承角90°) 構造図	制定	2022. 6
		改訂	-

内副管標準構造図 (1)

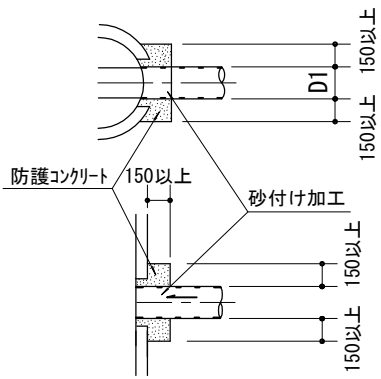
省スペース型



一般型



既設人孔に接続する場合



使用コンクリート	18-12-20BB
基礎材	RC-40

※使用コンクリートの水セメント比は60%を上限とする。

副管断面選定基準 (単位: mm)

本管・取付管の内径 (D1)	副管径 (d)
150	100
200	150
250 ~ 400	200
450 ~ 500	250
600	300

SUSバンド定着個数

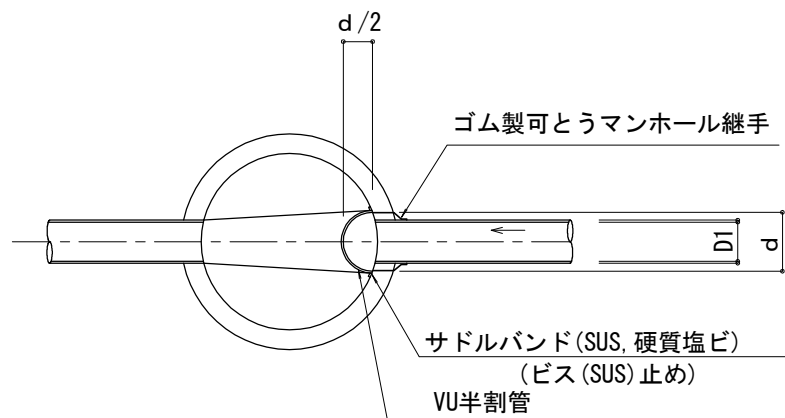
落差 (H)	SUSバンド個数
3.00m 以下	2
3.00m ~ 5.00m	3
5.00m ~ 7.00m	4
7.00m ~ 9.00m	5

- 注1. 副管を設置する場合は、原則として内副管(省スペース型)とする。ただし、D1>200の場合は、一般型とする。
- 注2. 設置する人孔は、原則2号マンホール以上とする。
- 注3. 人孔を新設する場合は、可とう継手を使用すること。
- 注4. 既設の人孔に接続する場合は、防護コンクリートにより止水性を確保すること。
- 注5. 既設の人孔に接続する場合の削孔径は必要最小限とすること。

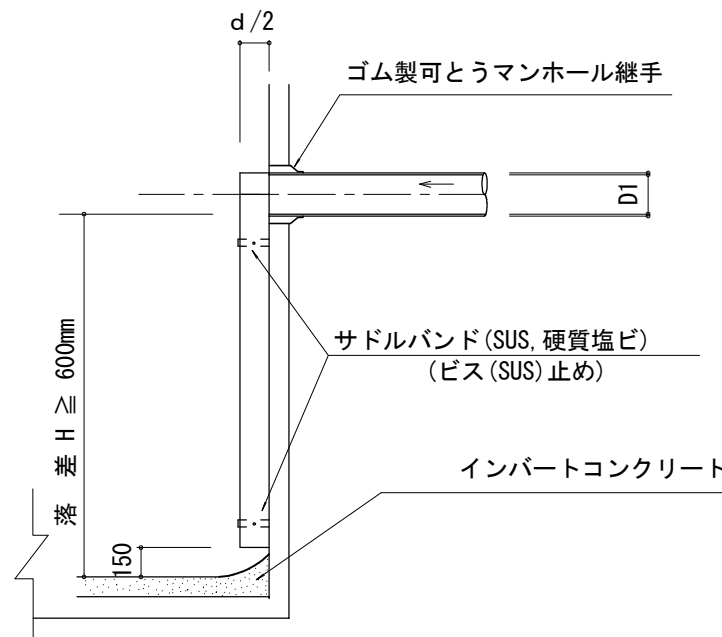
図名	内副管標準構造図 (1)	制定	2013. 6
		改訂	2023. 4

内副管標準構造図 (2)

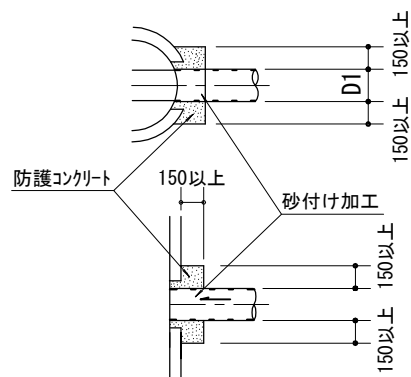
平面図



断面図



既設人孔に接続する場合



使用コンクリート	18-12-20BB
基礎材	RC-40

※使用コンクリートの水セメント比は60%を上限とする。

副管断面選定基準 (単位: mm)

本管・取付管の内径 (D1)	副管径 (d)
150	250
200	300
250 ~ 300	400
350 ~ 400	500
450 ~ 600	600

サドルバンド定着個数

落差 (H)	バンド個数
3.00m 以下	2
3.00m ~ 5.00m	3
5.00m ~ 7.00m	4
7.00m ~ 9.00m	5

- 注1. 本構造図 (VU半割管) については、既設人孔に接続する場合で人孔内のスペースが小さい場合のみ適用すること。
- 注2. 人孔を新設する場合は、可とう継手を使用すること。
- 注3. 既設の人孔に接続する場合は、防護コンクリートにより止水性を確保すること。
- 注4. 流下阻害発生防止のため、ビス (SUS) の突出量は最小限とすること。
- 注5. 既設の人孔に接続する場合の削孔径は必要最小限とすること。

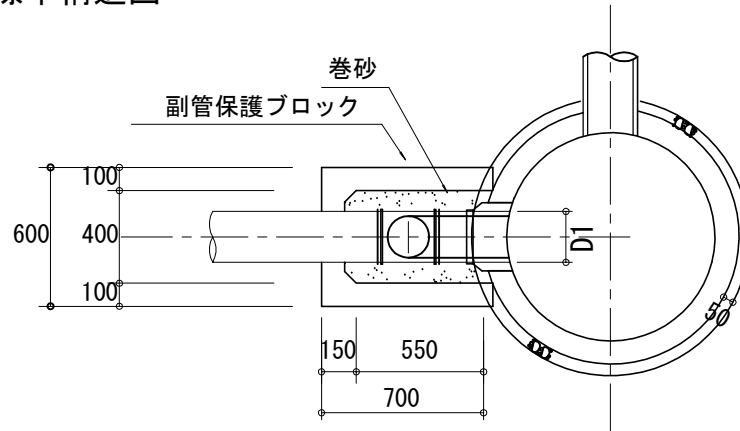
図名	内副管標準構造図 (2)	制定	2013. 6
		改訂	2023. 4

外副管標準構造図 (1)

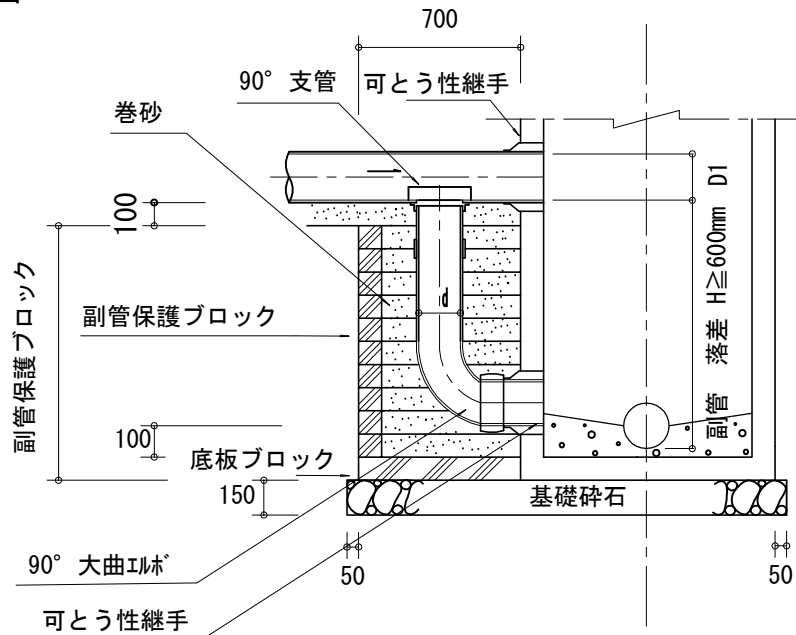
(新設の人孔に接続する場合)

可とう性外副管標準構造図

平面図



断面図



副管断面選定基準 (単位: mm)

本管の内径 (D1)	副管径 (d)
150	100
200	150
250	200

基礎材	RC-40
-----	-------

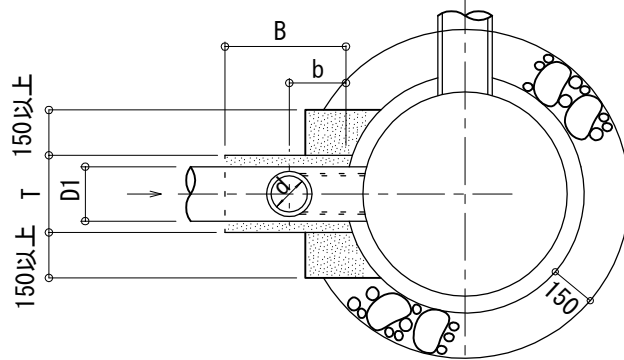
- 注1. 副管を設置する場合は、原則として内副管とする。
- 注2. 再生砂を使用する場合は、六価クロム溶出試験を実施すること。

図名	外副管標準構造図 (1)	制定	2013.6
		改訂	2022.6

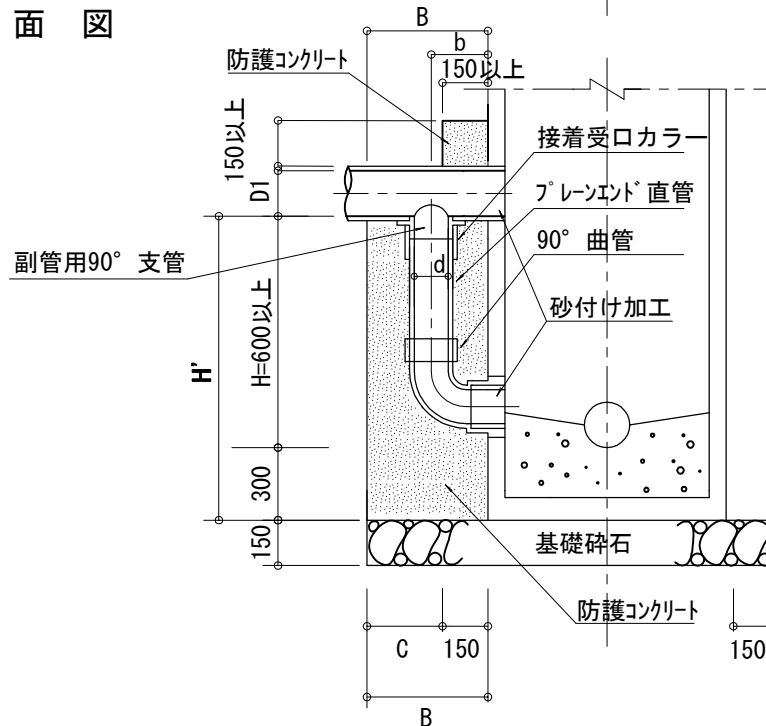
外副管標準構造図 (2)

(既設の人孔に接続する場合)

平面図



断面図



副管断面選定基準 (単位: mm)

本管の内径 (D1)	副管径 (d)	副管外径 (d')
200	150	165
250~400	200	216
450~500	250	267
600	300	318

寸法表 (単位: mm)

副管径 (d)	T	B	b	C
150	350	400	200	250
200	400	450	250	300
250	450	500	275	350
300	550	550	300	400

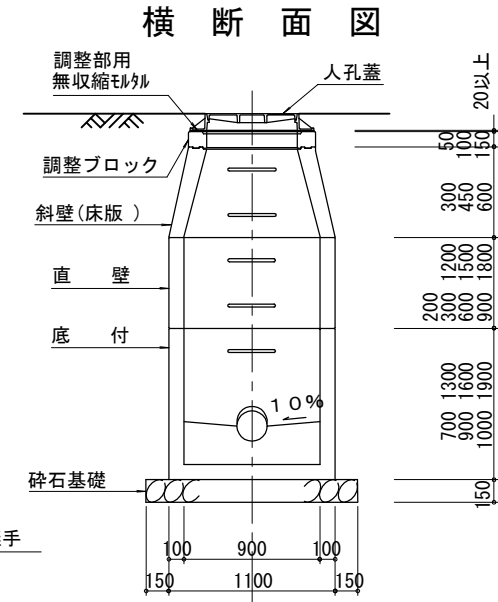
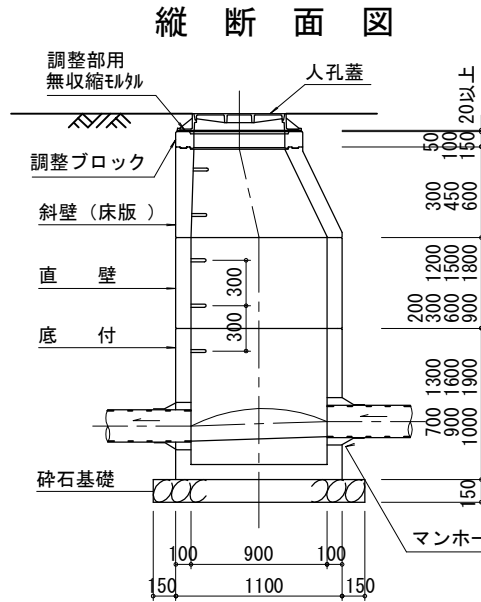
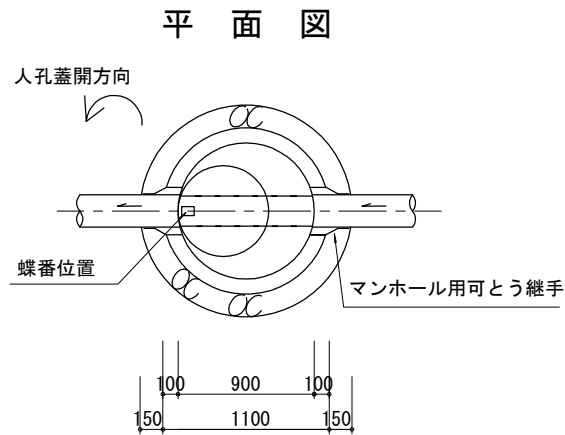
使用コンクリート	18-12-20BB
基礎材	RC-40

使用コンクリートの水セメント比は60%を上限とする。

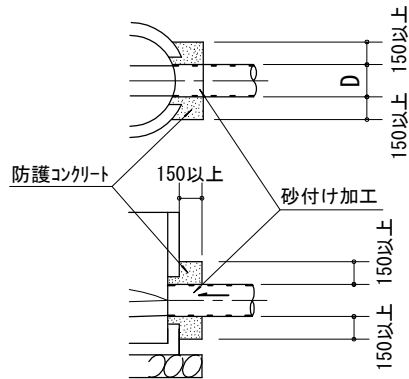
注1. 副管を設置する場合は、原則として内副管とする。

図名	外副管標準構造図 (2)	制定	2013.6
		改訂	2022.6

1号組立人孔標準構造図



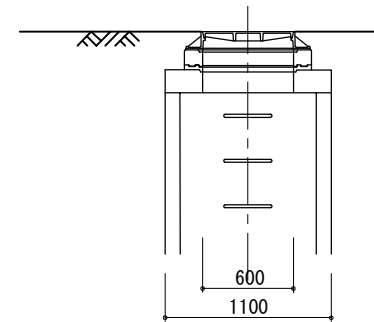
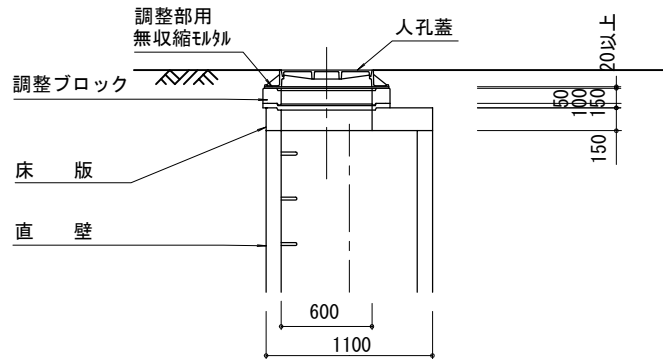
既設人孔に接続する場合



使用コンクリート	18-12-20BB
基礎材	RC-40

※使用コンクリートの水セメント比は60%を上限とする。

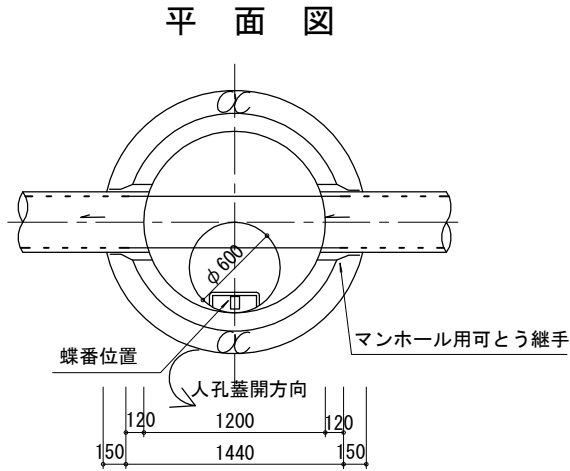
床版ブロック使用の場合



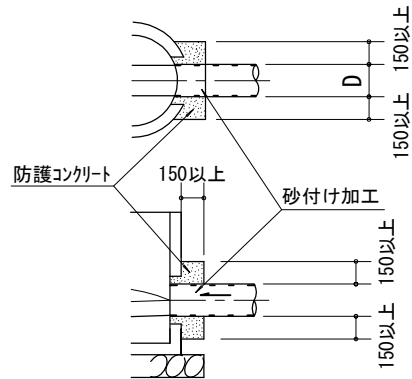
- 注1. 仕様については、上記図面と同等品以上のものとする。
- 注2. 足掛金物は、原則として下流側に設置するが、人孔内での円滑な昇降が可能な配置とする。
- 注3. コネクタ(蝶番)は、開閉による交通の支障の有無、足掛金物の配置等を踏まえた位置とすること。
- 注4. 人孔を新設する場合は、可とう継手を使用すること。
- 注5. 既設の人孔に接続する場合は、防護コンクリートにより止水性を確保すること。
- 注6. 調整ブロックによる調整高は500mm未満とすること。
- 注7. 既設人孔に接続する場合の削孔径は必要最小限とすること。

図名	1号組立人孔標準構造図	制定	2013.6
		改訂	2023.4

2号組立人孔標準構造図



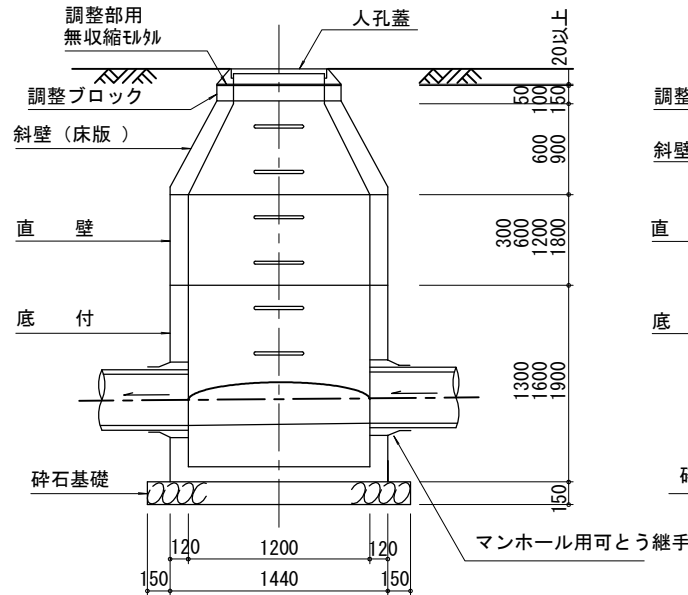
既設人孔に接続する場合



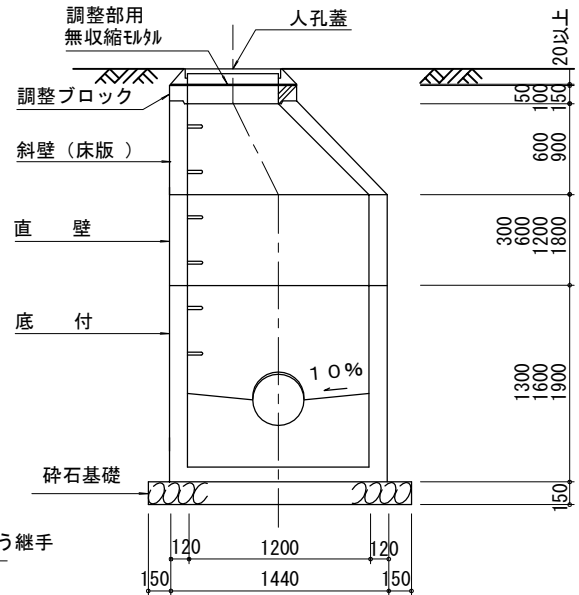
使用コンクリート	18-12-20BB
基礎材	RC-40

※使用コンクリートの水セメント比は60%を上限とする。

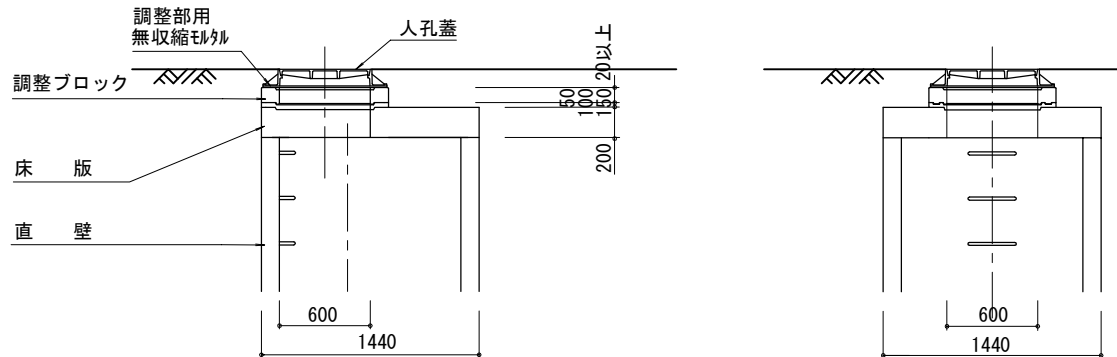
縦断面図 (Vertical Section View)



横断面図 (Horizontal Section View)



床版ブロック使用の場合 (When using bed plate blocks)

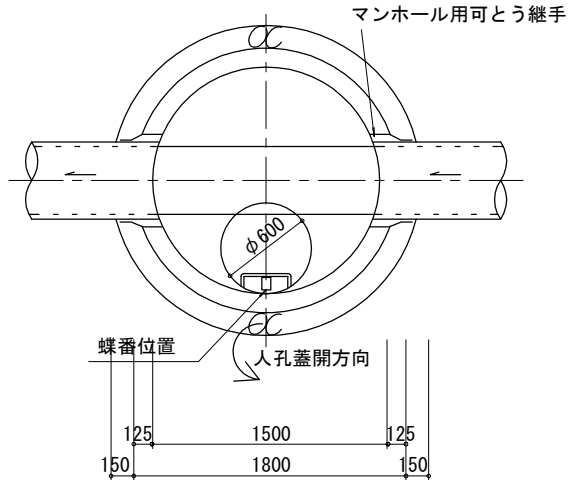


- 注1. 仕様については、上記図面と同等品以上のものとする。
- 注2. 足掛金物は、原則として下流側に設置するが、人孔内での円滑な昇降が可能な配置とする。
- 注3. コネクタ(蝶番)は、開閉による交通の支障の有無、足掛金物の配置等を踏まえた位置とすること。
- 注4. 人孔を新設する場合は、可とう継手を使用すること。
- 注5. 既設の人孔に接続する場合は、防護コンクリートにより止水性を確保すること。
- 注6. 調整ブロックによる調整高は500mm未満とすること。
- 注7. 既設人孔に接続する場合は削孔径は必要最小限とすること。

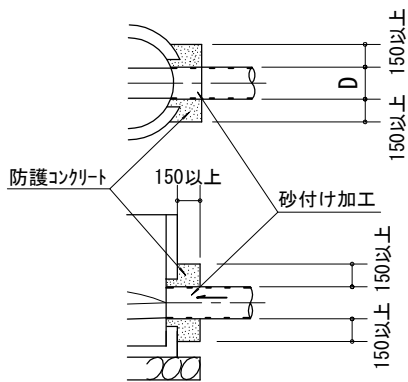
図名	2号組立人孔標準構造図	制定	2013.6
		改訂	2023.4

3号組立人孔標準構造図

平面図



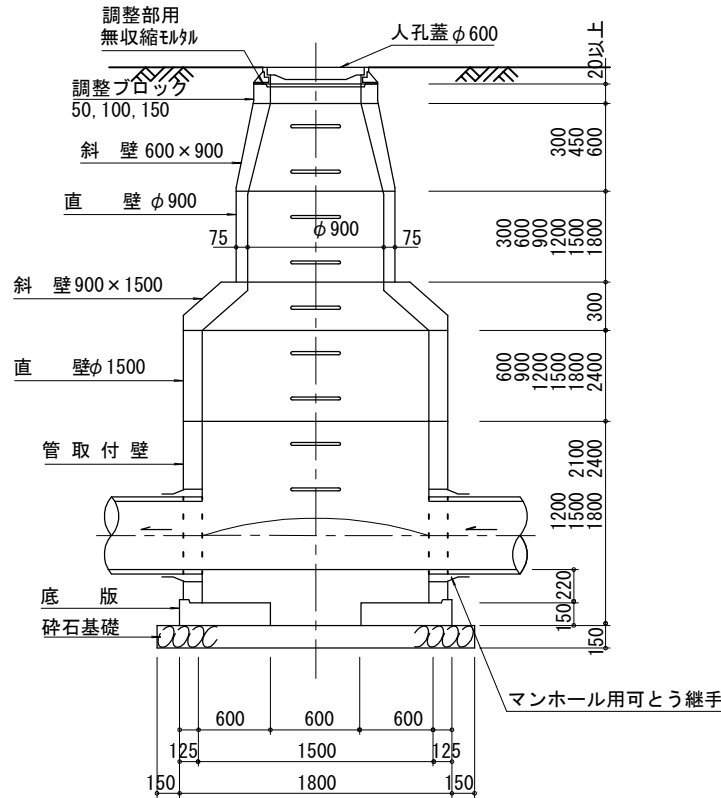
既設人孔に接続する場合



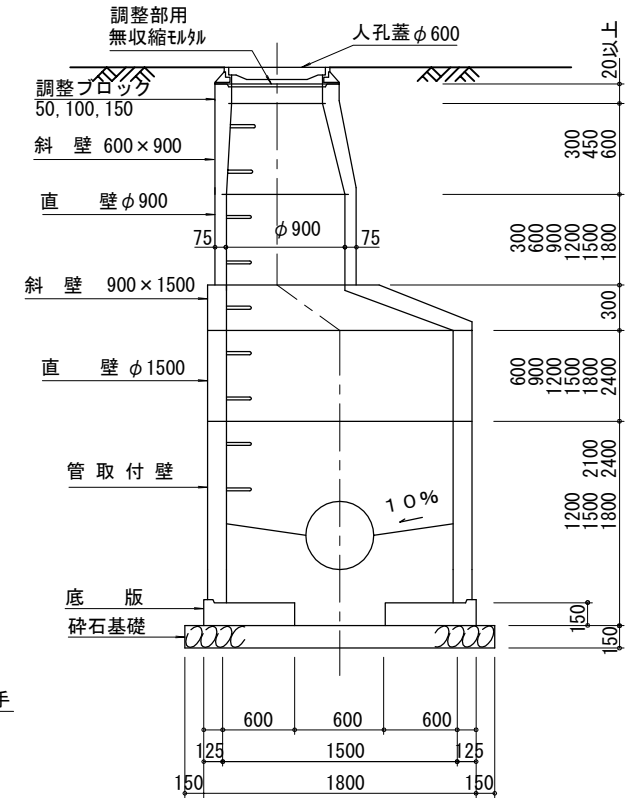
使用コンクリート	18-12-20BB
基礎材	RC-40

※使用コンクリートの水セメント比は60%を上限とする。

縦断面図



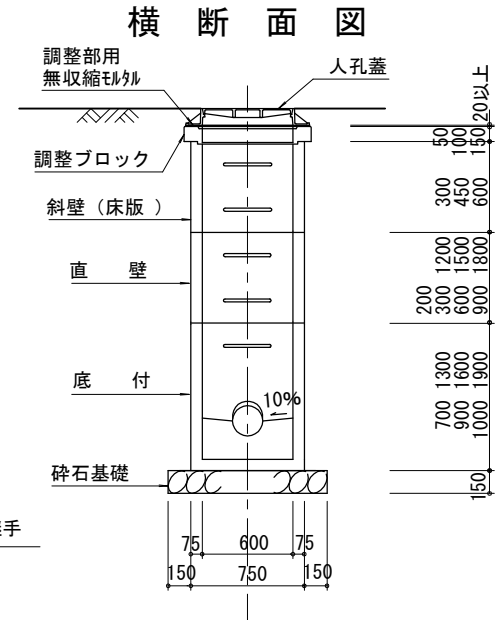
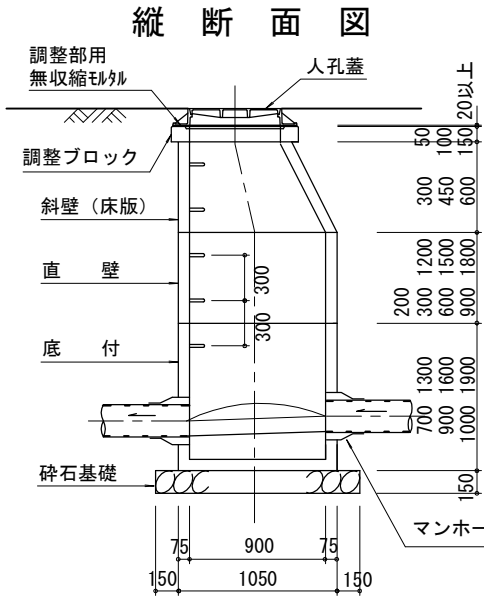
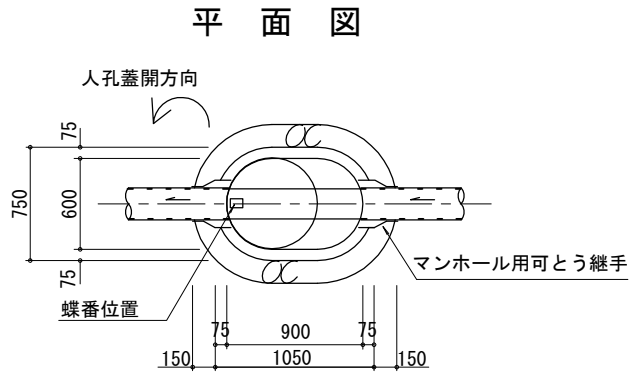
横断面図



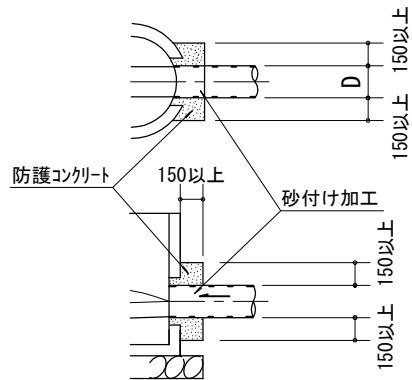
- 仕様については、上記図面と同等品以上のものとする。
- 足掛金物は、原則として下流側に設置するが、人孔内での円滑な昇降が可能な配置とする。
- コネクタ(蝶番)は、開閉による交通の支障の有無、足掛金物の配置等を踏まえた位置とすること。
- 人孔を新設する場合は、可とう継手を使用すること。
- 既設の人孔に接続する場合は、防護コンクリートにより止水性を確保すること。
- 調整ブロックによる調整高は500mm未満とすること。
- 既設人孔に接続する場合の削孔径は必要最小限とすること。

図名	3号組立人孔標準構造図	制定	2013.6
		改訂	2023.4

楕円組立人孔標準構造図



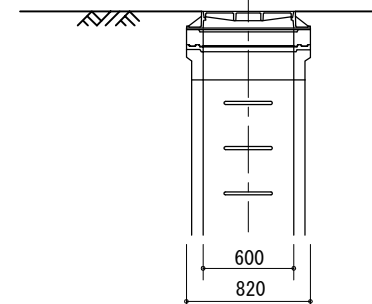
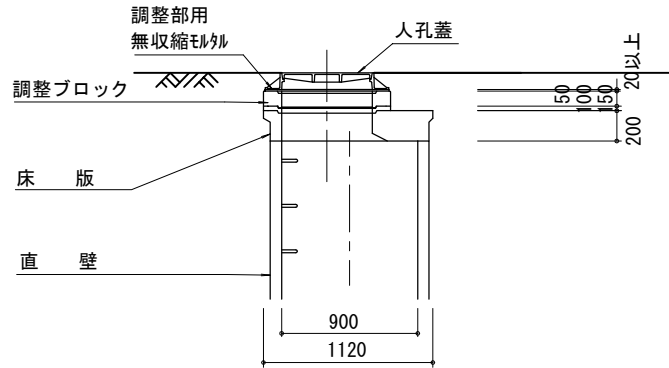
既設人孔に接続する場合



使用コンクリート	18-12-20BB
基礎材	RC-40

※使用コンクリートの水セメント比は60%を上限とする。

床版ブロック使用の場合

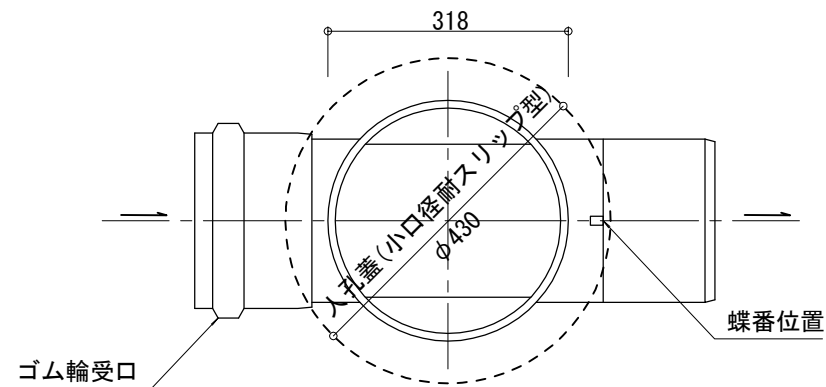


- 注1. 仕様については、上記図面と同等品以上のものとする。
- 注2. 足掛金物は、原則として下流側に設置するが、人孔内での円滑な昇降が可能な配置とする。
- 注3. コネクタ(蝶番)は、開閉による交通の支障の有無、足掛金物の配置等を踏まえた位置とすること。
- 注4. 人孔を新設する場合は、可とう継手を使用すること。
- 注5. 既設の人孔に接続する場合は、防護コンクリートにより止水性を確保すること。
- 注6. 調整ブロックによる調整高は500mm未満とすること。
- 注7. 既設人孔に接続する場合の削孔径は必要最小限とすること。

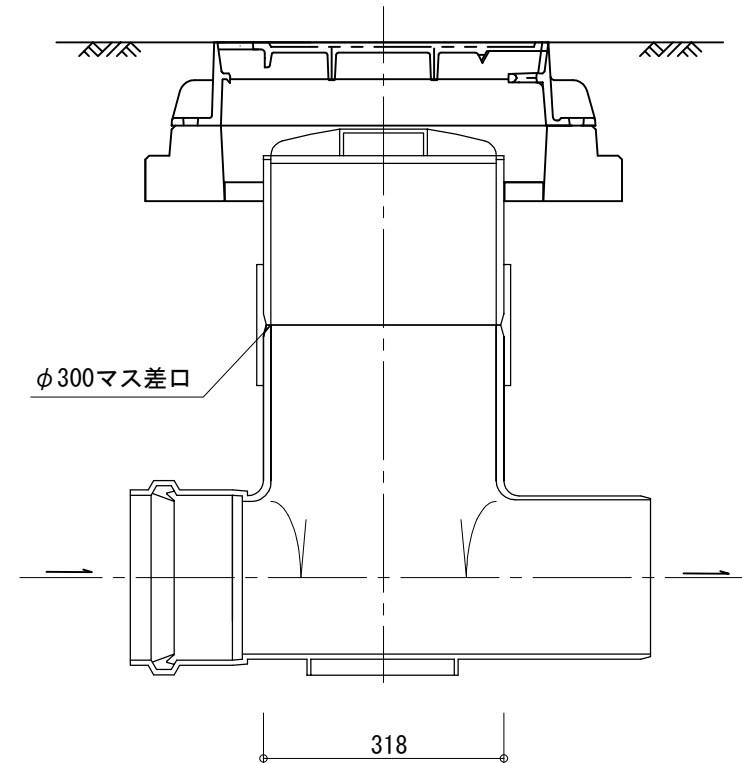
図名	楕円組立人孔標準構造図	制定	2013.6
		改訂	2023.4

点検口標準構造図

平面図



縦断面図

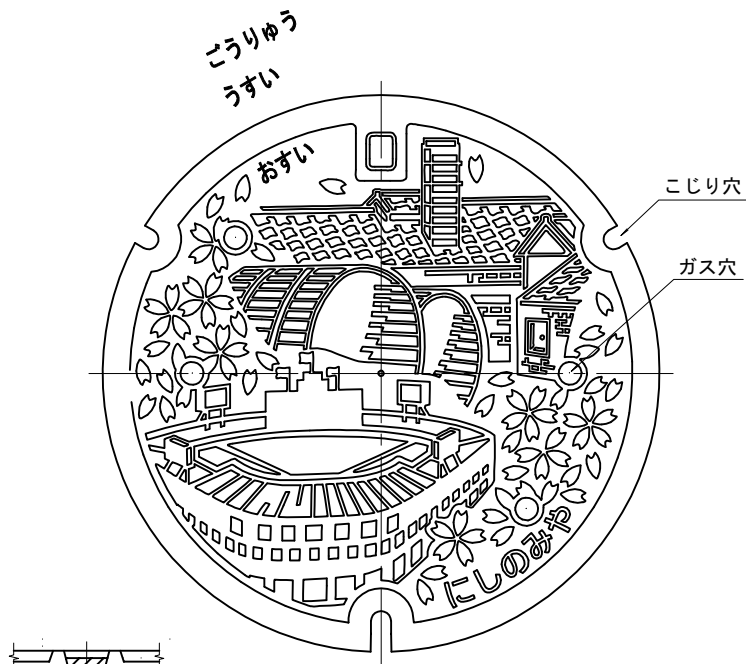


- 注1. 仕様については、上記図面と同等品以上のものとする。
 注2. コネクタ(蝶番)の位置は下流側に設置するものとする。
 ただし、交通の支障にならないよう開閉できる位置とすること。

図名	点検口標準構造図	制定	2022. 6
		改訂	-

人孔蓋標準構造図（一般型）T-14 参考図

平面図

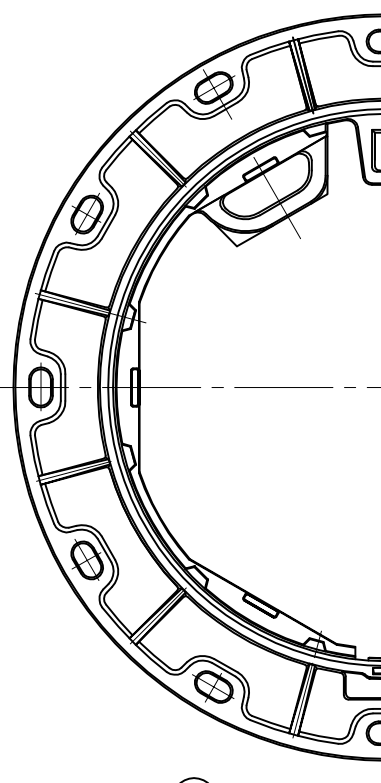


ガス穴詳細

※ガス穴ナシの場合は斜線部を埋めること

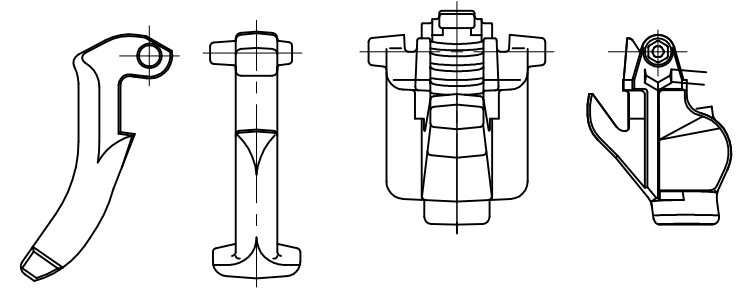
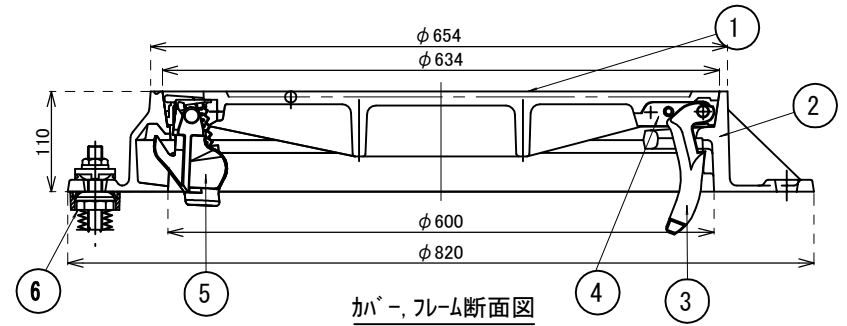
ガス穴なし・こじり穴袋式・・・汚水・合流
ガス穴あり・こじり穴開放・・・雨水

① ふた平面図



② 受枠平面図

断面図



③ 蝶番金物詳細図

⑤ 自動錠詳細図

【人孔蓋設置基準】

設置場所	1. 平坦な歩道（交差点を除く）勾配5%以下程度 2. 一般型（デザイン）のふた設置が好ましいと判断する箇所
荷重仕様	T-14

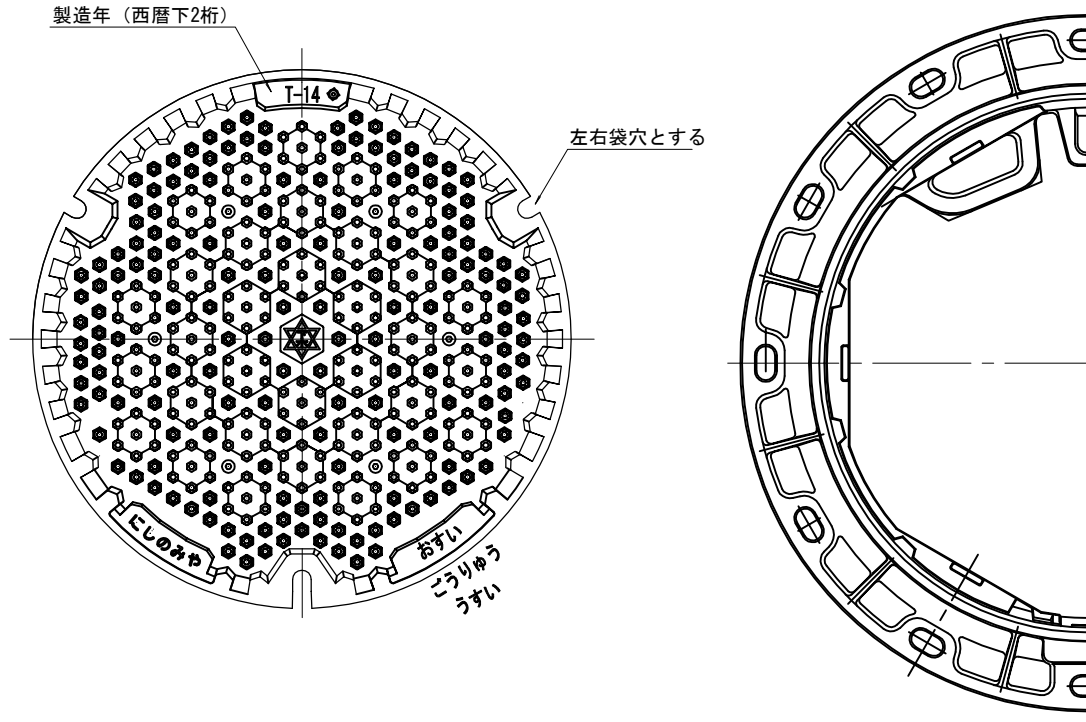
① ふた	FCD700
② 枠	FCD600
③ 蝶番	FCD600
④ 蝶番押え	ナイロン
⑤ 自動錠	FCD600他
⑥ 受枠変形防止調整駒	ホリアセタル他

注1. 本図面はメーカーを指定するものではない。
本市の認定を受けている業者の人孔蓋を使用すること。

図名	人孔蓋標準構造図（一般型）T-14 参考図	制定	2022.6
		改訂	2023.4

人孔蓋標準構造図（耐スリップ型）T-14 参考図

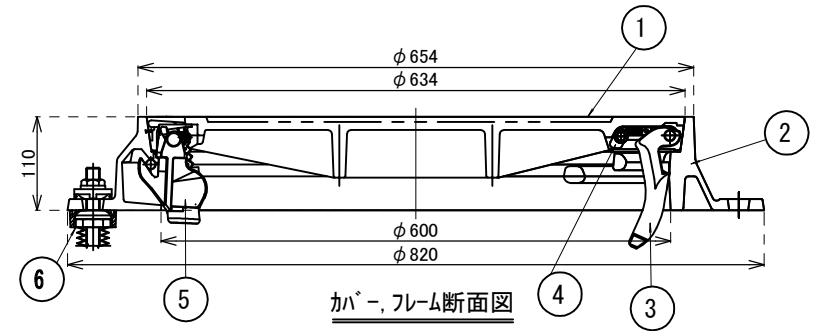
平面図



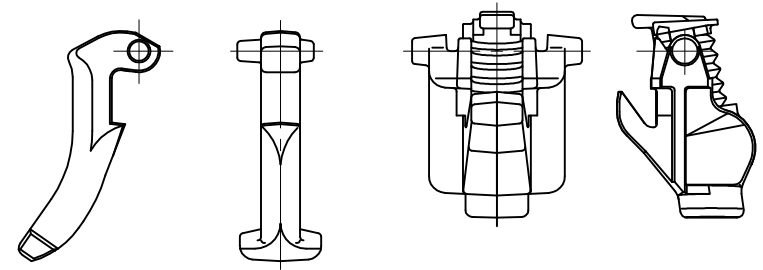
① ふた平面図

② 受枠平面図

断面図



カバー、フレーム断面図



③ 蝶番金物詳細図

⑤ 自動錠詳細図

【人孔蓋設置基準】

設置場所	一般型、高性能型 設置箇所以外の全ての箇所
荷重仕様	T-25：車道幅員5.5m以上または一方通行等で大型車両の通行がある道路および拡幅計画道路 T-14：歩道または上記以外の道路

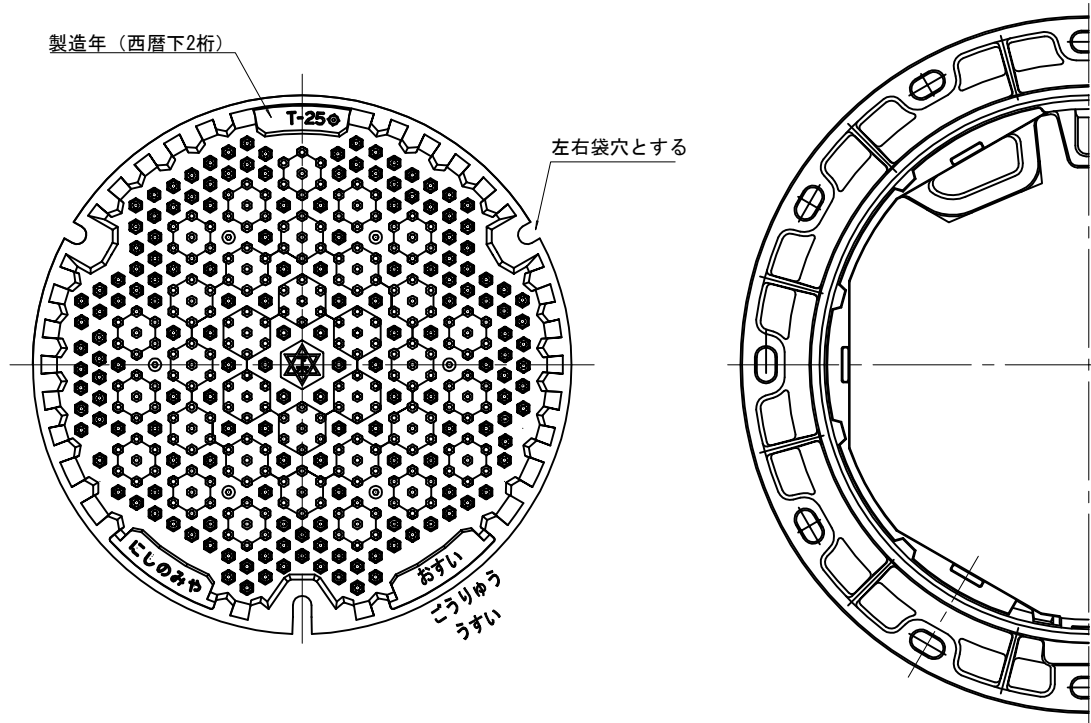
① ふた	FCD700
② 枠	FCD600
③ 蝶番	FCD600
④ 蝶番押え	ナイロン
⑤ 自動錠	FCD600他
⑥ 受枠変形防止調整駒	ホリアセール他

注1. 本図面はメーカーを指定するものではない。
本市の認定を受けている業者の人孔蓋を使用すること。

図名	人孔蓋標準構造図（耐スリップ型）T-14	制定	2022.6
	参考図	改訂	2023.4

人孔蓋標準構造図（耐スリップ型）T-25 参考図

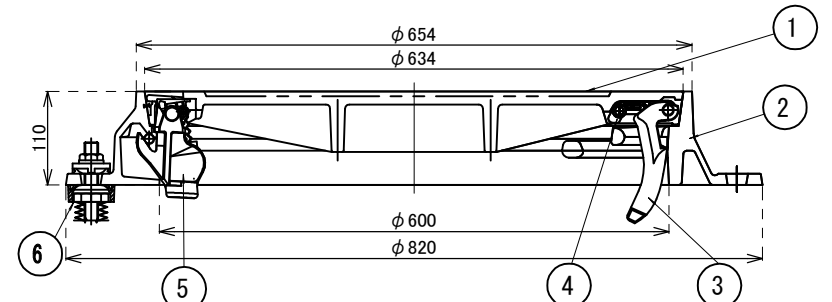
平面図



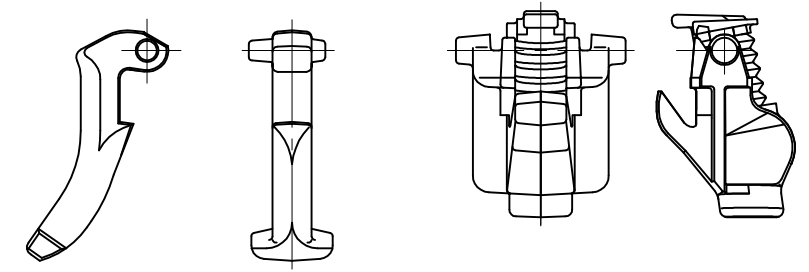
① ふた平面図

② 受枠平面図

断面図



カバー、フレーム断面図



③ 蝶番金物詳細図

⑤ 自動錠詳細図

【人孔蓋設置基準】

設置場所	一般型、高性能型 設置箇所以外の全ての箇所
荷重仕様	T-25：車道幅員5.5m以上または一方通行等で大型車両の通行がある道路および拡幅計画道路 T-14：歩道または上記以外の道路

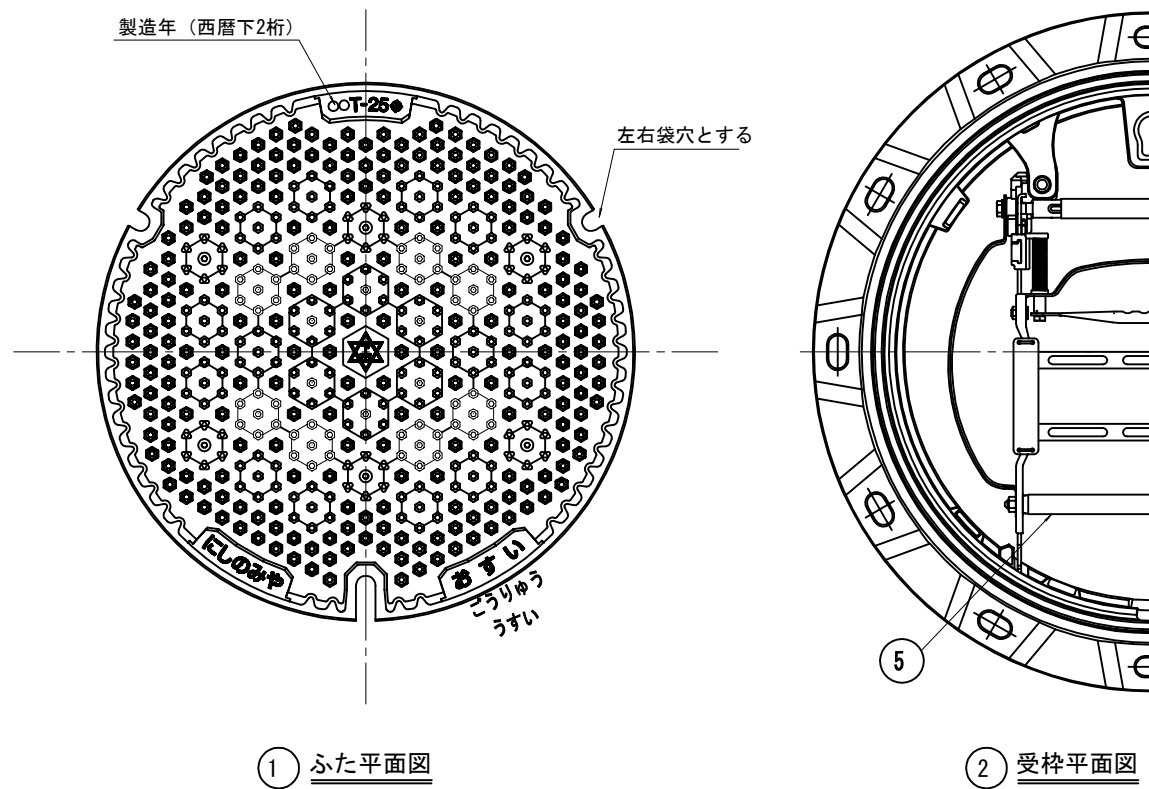
① ふた	FCD700
② 枠	FCD600
③ 蝶番	FCD600
④ 蝶番押え	ナイロン
⑤ 自動錠	FCD600他
⑥ 受枠変形防止調整駒	ホリアセラル他

注1. 本図面はメーカーを指定するものではない。
本市の認定を受けている業者の人孔蓋を使用すること。

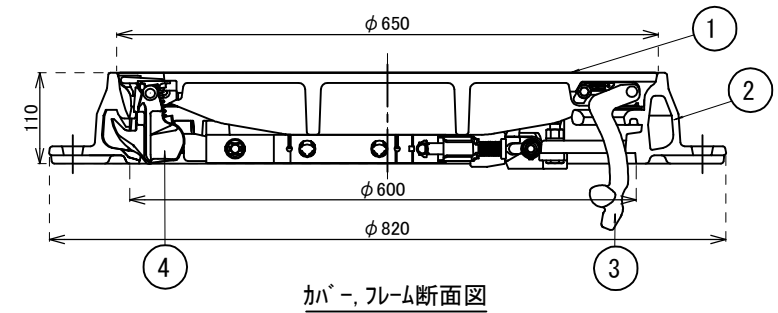
図名	人孔蓋標準構造図（耐スリップ型）T-25 参考図	制定	2022.6
		改訂	2023.4

人孔蓋標準構造図（高性能型）T-25 参考図

平面図



断面図



【人孔蓋設置基準】

設置場所	1. 国道・県道および市道アスコン5号工の車道部 2. 合流および雨水幹線 3. 車道部に設置するマンホールポンプ設置箇所 4. その他、特に必要と判断する箇所
荷重仕様	T-25

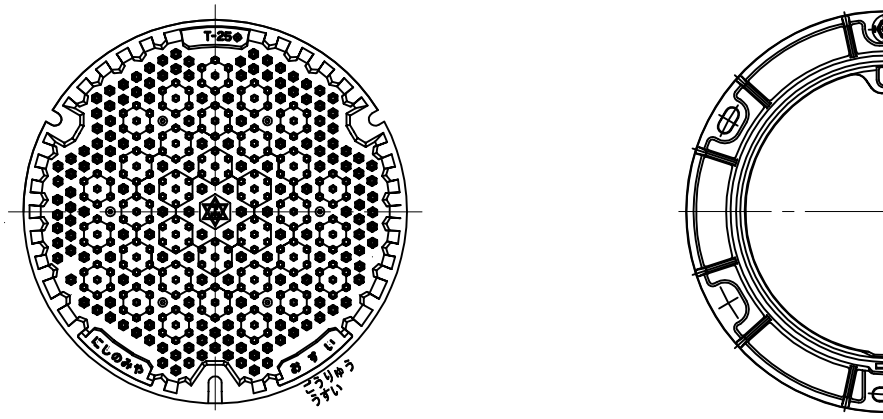
① ふた	FCD700
② 枠	FCD600
③ 蝶番	FCD600
④ 自動錠	FCD600他
⑤ 転落防止装置	SUS303他

注1. 本図面はメーカーを指定するものではない。
本市の認定を受けている業者の人孔蓋を使用すること。

図名	人孔蓋標準構造図（高性能型）T-25 参考図	制定	2022.6
		改訂	2023.4

人孔蓋標準構造図（小口径耐スリップ型）T-25 参考図

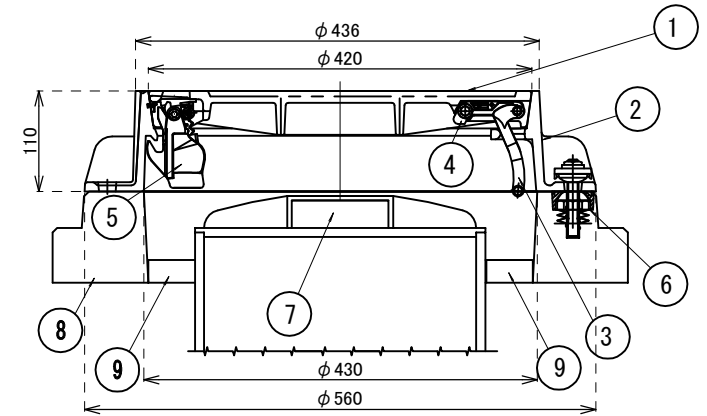
平面図



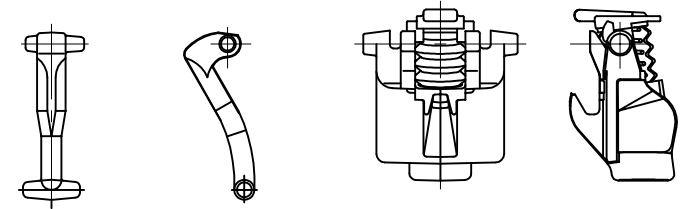
① ふた平面図

② 受枠平面図

断面図



カバー、フレーム断面図



③ 蝶番金物詳細図

⑤ 自動錠詳細図

【人孔蓋設置基準】

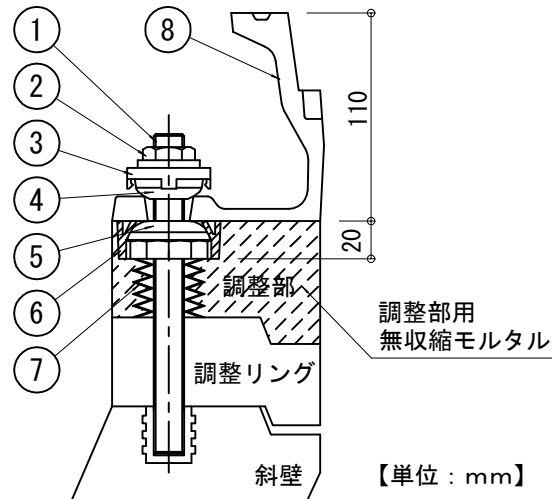
設置場所	1. 点検口の防護用 2. 道路上に設置された公共街
荷重仕様	T-25

① ふた		FCD700
② 枠	WA-42G-11L	FCD600
③ 蝶番		FCD600
④ 蝶番押え		ナイロン
⑤ 自動錠		FCD600他
⑥ 受枠変形防止調整駒		ホリヤセタル他
⑦ 内蓋		塩化ビニル製
⑧ 台座	NHV0-43-100S	コンクリート製
⑨ センタリングプレート		発泡PE

注1. 本図面はメーカーを指定するものではない。
本市の認定を受けている業者の人孔蓋を使用すること。

図名	人孔蓋標準構造図（小口径耐スリップ型）T-25 参考図	制定	2022.6
		改訂	2023.4

人孔蓋据付参考図



〈施工標準図〉

番号	部品名称
①	アンカーボルト SUS304 M-16
②	六角ナット SUS304 M-16
③	回り止めキャップ
④	サブホルダ
⑤	メインホルダ
⑥	メインホルダスリーブ
⑦	ボルトスリーブ
⑧	受枠

- 鉄蓋と上部斜壁（側塊）との固定
 車両通過時の衝撃荷重や振動あるいはマンホール内部からの圧力（ウォーターハンマー／エアハンマー）等で蓋が受枠ごと浮上することがないように、鉄蓋と斜壁（側塊）はボルト緊結により固定する。
- 鉄蓋と斜壁（側塊）の間の高さ調整部の施工
 鉄蓋と斜壁（側塊）の間は、将来的な舗装面の切下げや道路補修による路面高さの変更に対応できるよう、調整部を設けることとする。
 高さ調整は、道路勾配に対する微調整が容易に行え、且つ受枠の変形防止機能を有するレベル調整部品を使用する。
 調整部の施工はモルタルを充てんするが、使用するモルタルは施工性・無収縮性・高流動性・超早強性・耐久性に優れ、材料強度が高いものとする。
 尚、モルタルは以下に示す強度を有するものを使用すること。

項目	参考値
J14ロート流下時間(秒)	6 ± 2
圧縮強度 (N/mm ²) ※	9.8 以上
収縮・膨張性	収縮しないこと

※ 圧縮強度は温度20度、養生期間1.5時間での値

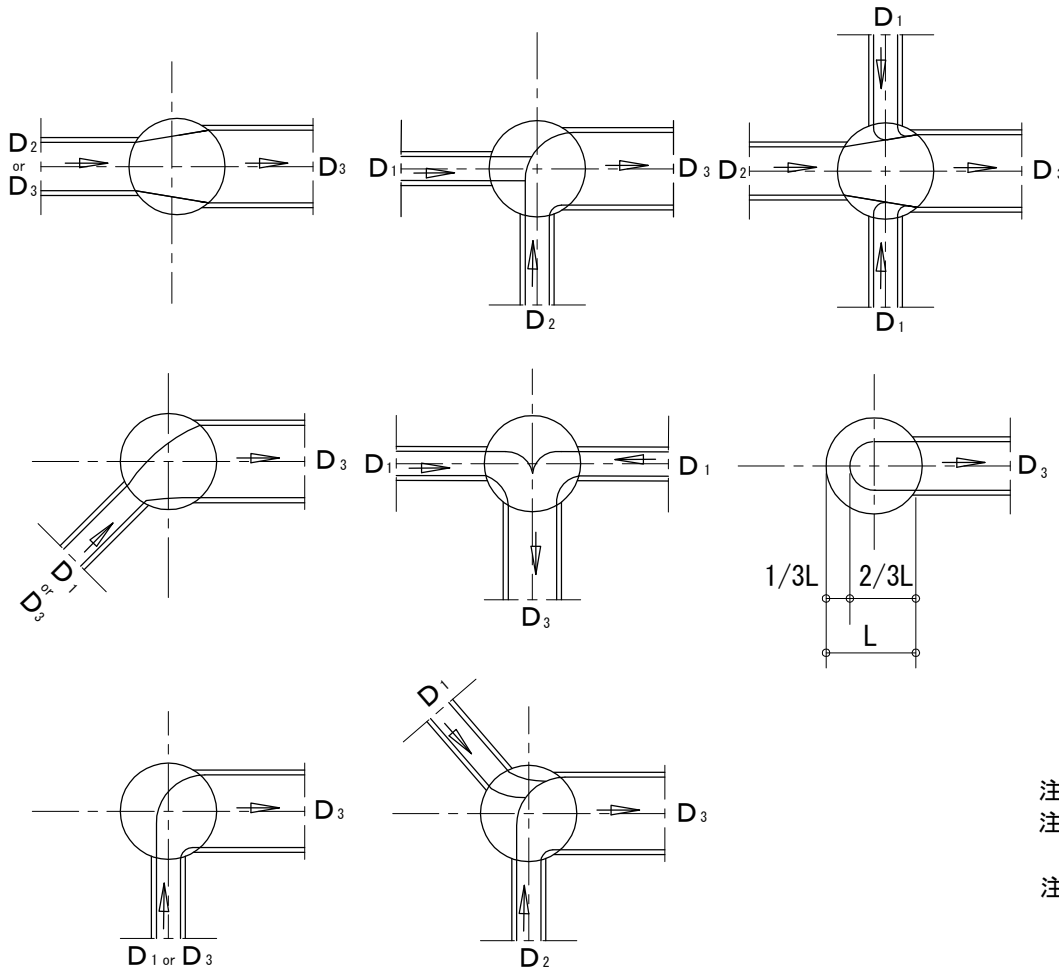
- 保護部材の使用
 将来的な鉄蓋の嵩上げ等が容易に行え、既設のアンカーボルト及びレベル調整部品の再利用を可能にするため、アンカーボルト及びレベル調整部品には保護部材を使用する。
- 蝶番（コネクタ）の設置位置
 蝶番（コネクタ）の位置は下流側に設置し、開時の蓋が下流側となるようにすること。但し、交通や開閉の支障となる場合は、この限りではない。
- 斜壁ブロック・インサートナットの引張強度は106kN以上（総数）を確保すること。

図名	人孔蓋据付参考図	制定	2013.6
		改訂	2022.6

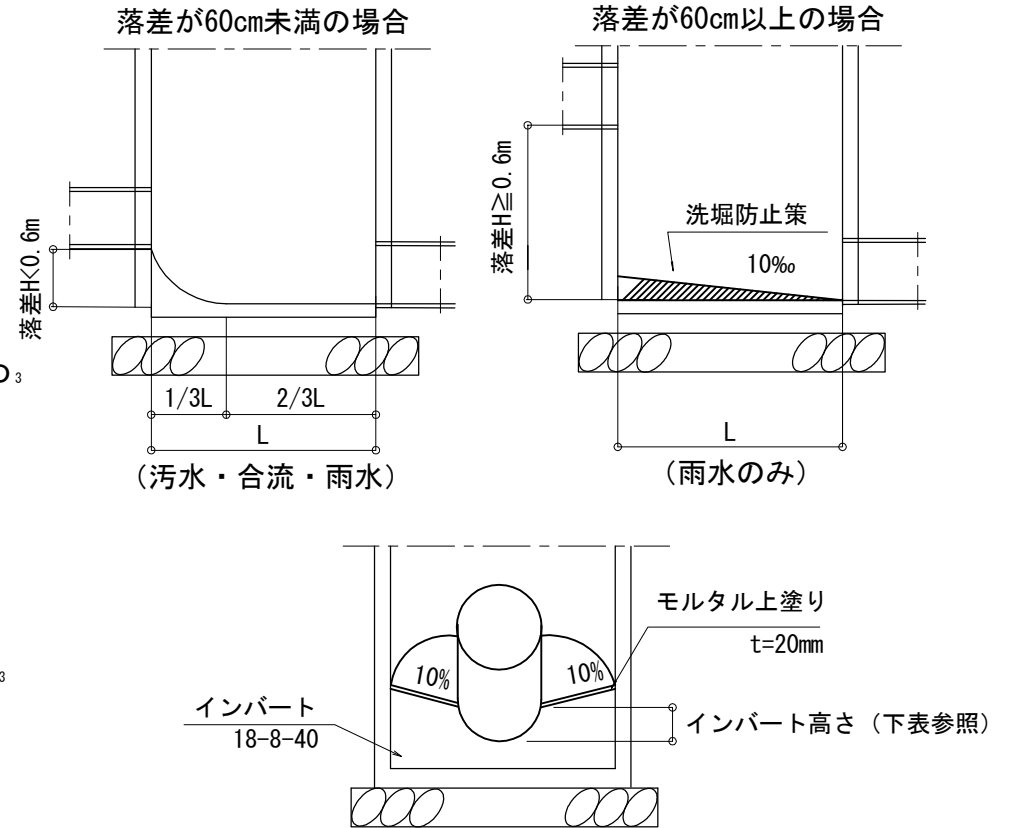
インバート工標準構造図

平面図

$$D1 < D2 < D3$$



断面図



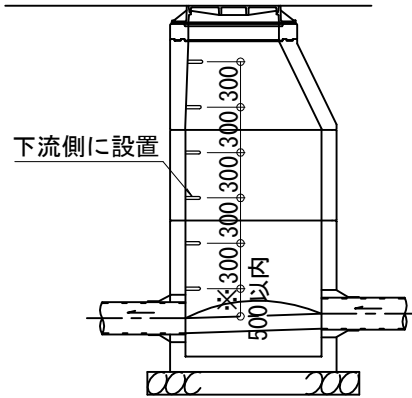
下流側 本管径 (mm)	高さ
250~900	下流側 管径の1/2
1000以上	50cm

- 注1. インバートの溝幅は、上下管径に合わせる事。
- 注2. 落差が60cm以上ある場合、汚水・合流は副管を設置すること。
雨水は洗堀防止策を施すこと。(雨水取付管の落差は除く)
- 注3. 洗堀防止策を施す場合のインバート形状については、下水道管理者と協議を行うこと。

図名	インバート工標準構造図	制定	2013.6
		改訂	2023.4

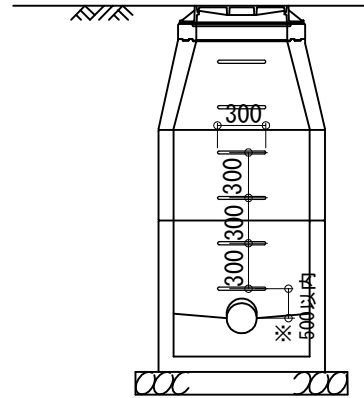
足掛金物設置標準構造図

設置側面図

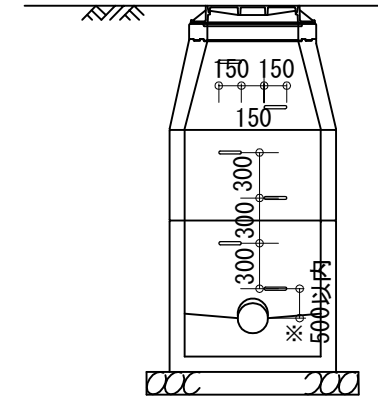


注1. インバートから50cm以内に設置
足掛金物は原則として下流側に設置するが、人孔内での円滑な昇降が可能な配置とする。

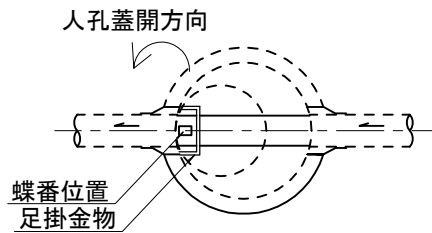
設置正面図
(W=300mm)



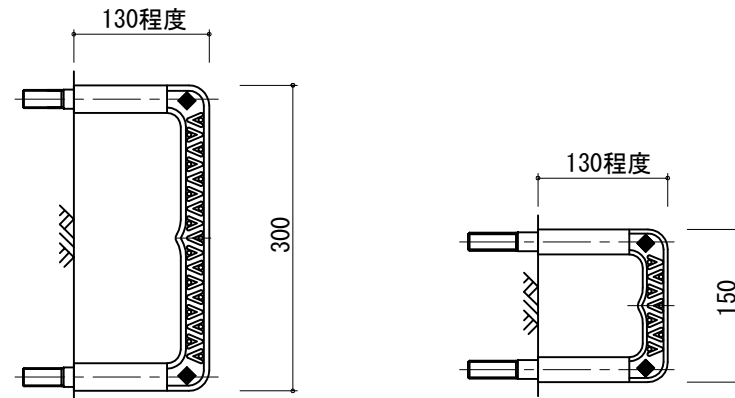
設置正面図
(W=150mm)



設置平面図



足掛金物詳細図：樹脂固定式（参考）



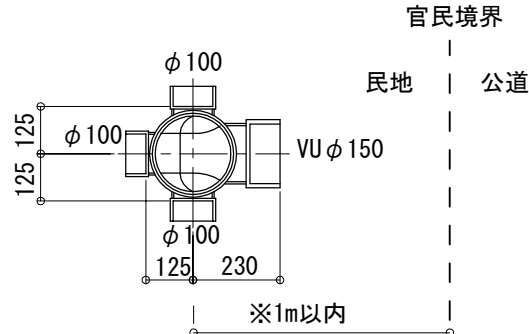
- 注2. 樹脂被膜の鋼鉄製を標準とするが、やむを得ない場合はFRP製、ステンレス製を使用してもよい。
- 注3. 足掛金物は、マンホール側塊に設ける。
- 注4. 必要な根入長を確保すること。(壁厚を超えないこと。)
- 注5. 新設や既設足掛金物を全撤去する工事の場合は、幅300mmの足掛金物を使用すること。
- 注6. 足掛金物の部分取替等、やむを得ない場合は、幅150mmの足掛金物を設置してもよい。

図名	足掛金物設置標準構造図	制定	2013. 6
		改訂	2022. 6

公共樹及び公共樹取付管標準構造図

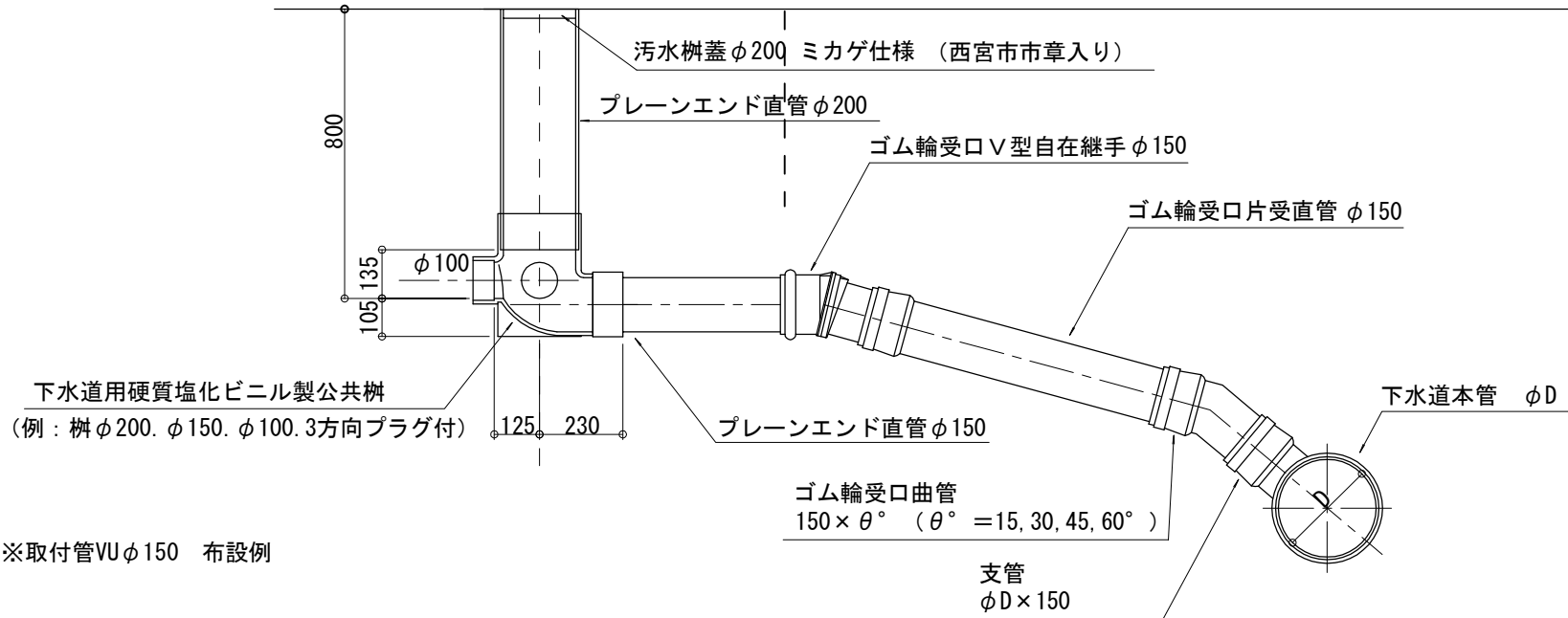
(下水道用硬質塩化ビニル製公共樹)

平面図



- 注1. 樹の深さ2.0m未満で塩ビ製、2.0m以上は1号人孔を原則とする
- 注2. 官民境界から樹の中心までの距離は、原則1m以内とする
- 注3. 排水設備の配管は底付とする。(ドロップ樹は不可)
- 注4. ツメにより支管を本管へ取付ける方法は不可とする。

断面図

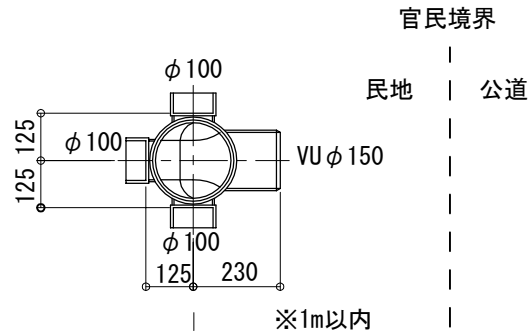


図名	公共樹及び公共樹取付管標準構造図	制定	2013.6
		改訂	2022.6

公共枡及び公共枡取付管標準構造図(耐震性)

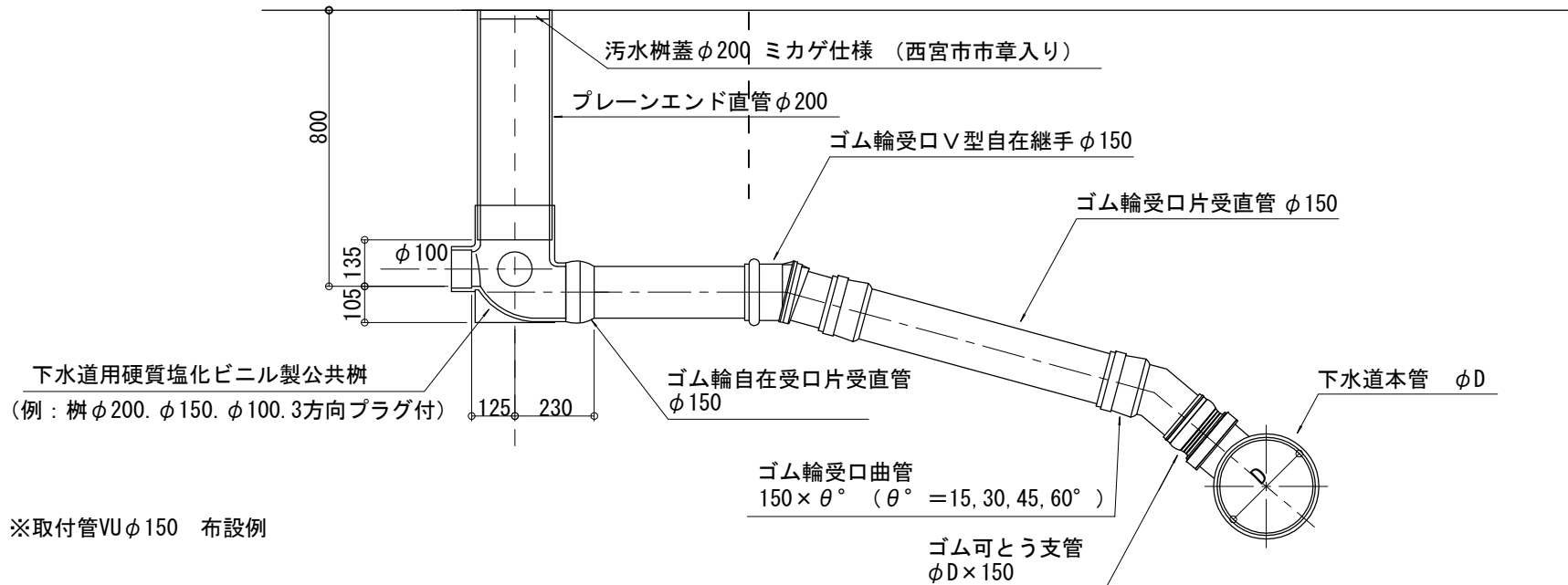
(下水道用硬質塩化ビニル製公共枡)

平面図



- 注1. 枡の深さ2.0m未満で塩ビ製、2.0m以上は1号人孔を原則とする
- 注2. 官民境界から枡の中心までの距離は、原則1m以内とする
- 注3. 地震対策上、重要な施設等における取付管は耐震型とする。
重要な施設等とは、避難所、防災拠点、緊急輸送道路下の公共下水道施設をいう。
(詳細は、下水道管理者に確認すること。)
- 注4. 排水設備の配管は底付とする。(ドロップ枡は不可)
- 注5. ツメにより支管を本管へ取付ける方法は不可とする。

断面図

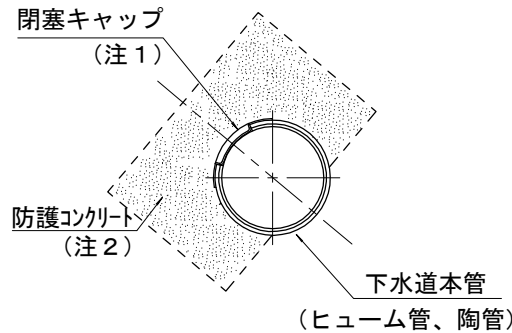


図名	公共枡及び公共枡取付管標準構造図(耐震性)	制定	2022.6
		改訂	-

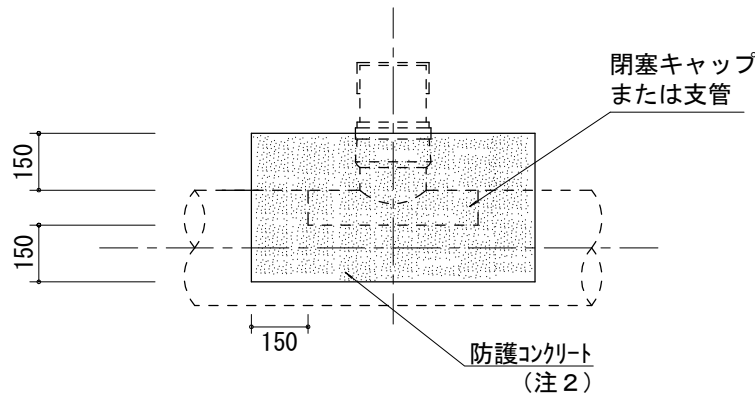
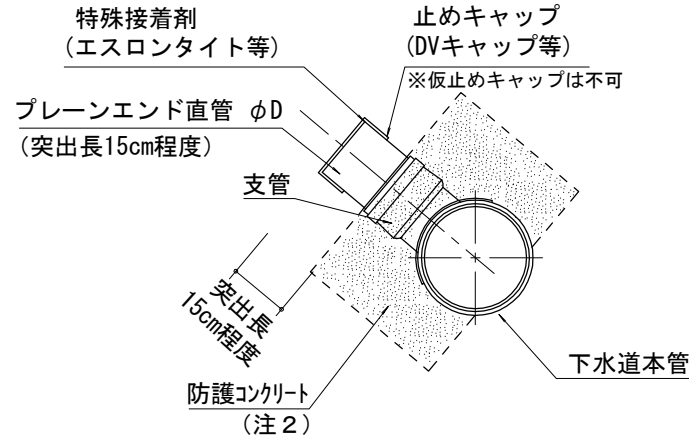
取付管撤去標準構造図

支管閉塞工

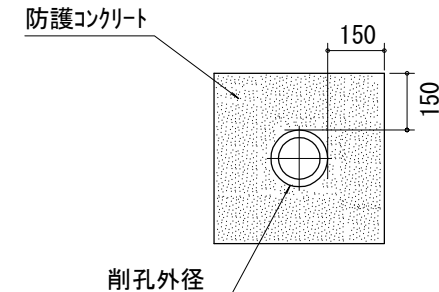
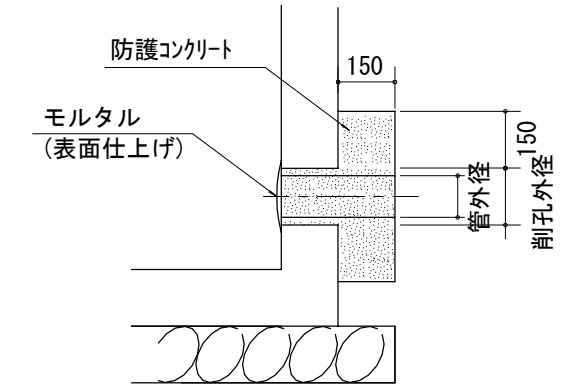
[本管がヒューム管、陶管の場合]



[本管がヒューム管、陶管以外の場合]



人孔閉塞工



使用コンクリート	18-12-20BB
基礎材	RC-40

使用コンクリートの水セメント比は60%を上限とする。

- 注3. 取付管は人孔内壁まで完全に撤去すること。
- 注4. 止水性を確保すること。
- 注5. 既設の人孔に接続する場合の削孔径は必要最小限とすること。

- 注1. 本管がヒューム管、陶管であり、閉塞キャップ設置時のケレン等により本管の損傷が懸念される場合、[本管がヒューム管、陶管以外の場合]の方法によるものとする。
- 注2. 老朽化等により、閉塞キャップ部、または本管と支管の接続部における止水性が確保できていない場合、防護コンクリート(t=150mm)により止水性を確保する。

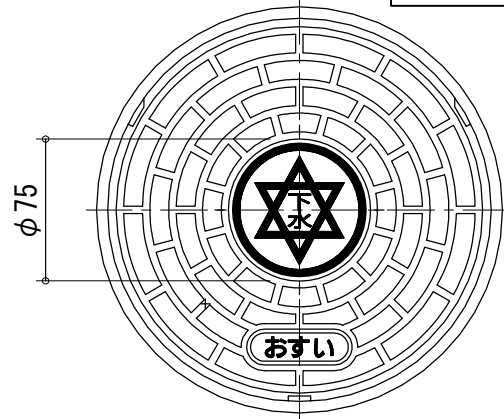
図名	取付管撤去標準構造図	制定	2022. 6
		改訂	2023. 4

公共枘蓋標準構造図（一般・圧力開放型）参考図

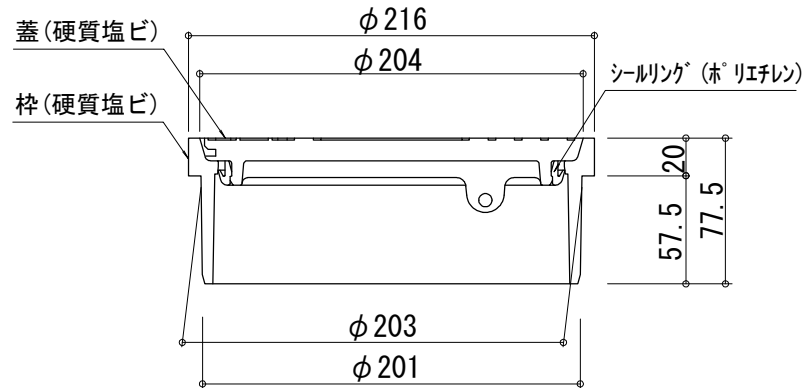
塩ビ製小口径公共枘（一般型）

【設置場所例】

設置場所	車両の通らない民地内
------	------------



ふた平面図

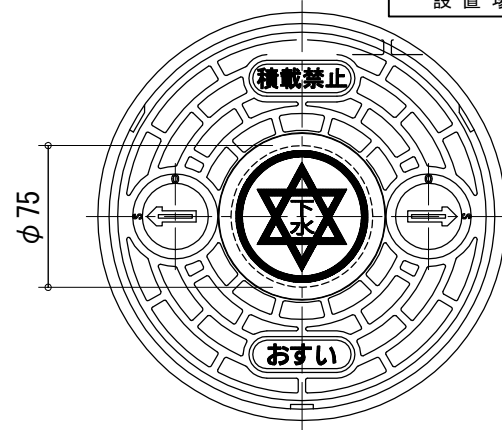


カバー、フレーム断面図

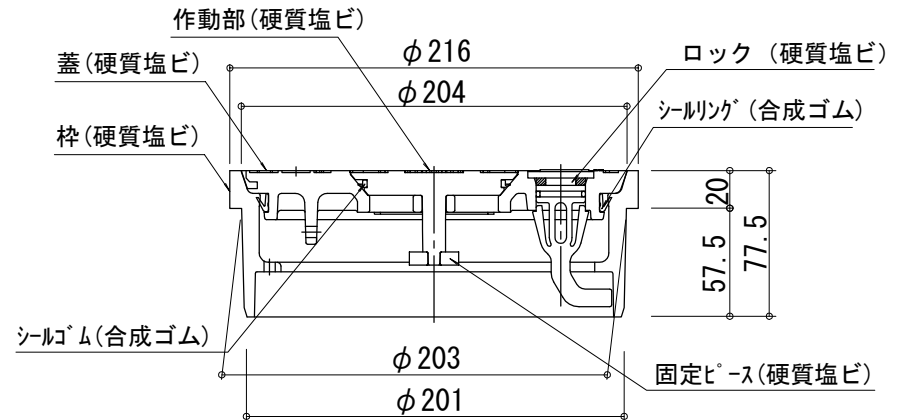
塩ビ製小口径公共枘（圧力開放型）

【設置場所例】

設置場所	合流地区などで圧力開放が必要な場所
------	-------------------



ふた平面図



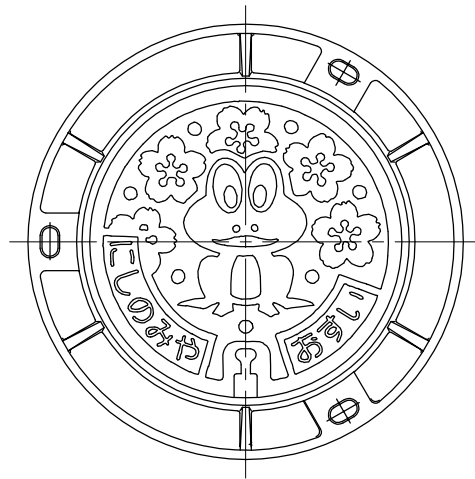
カバー、フレーム断面図

- 注1. 仕様については、上記図面と同等品以上のものとし、西宮市市章を入れること
- 注2. 圧力開放蓋は、常時、人や車が通行する場所および人や物が踏むような場所に設置してはならない
- 注3. 二重トラップ対策ではなく、蓋上部全体が浮上し本管からの圧力を開放できる機能を有するものとする

図名	公共枘蓋標準構造図（一般・圧力開放型） 参考図	制定	2022.6
		改訂	-

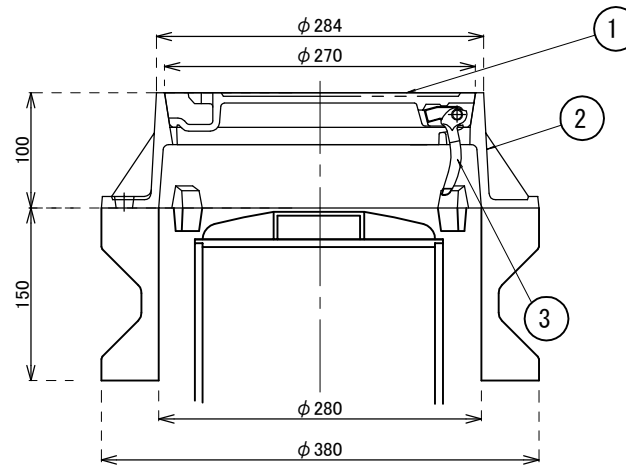
公共樹蓋標準構造図（保護鉄蓋）参考図

平面図

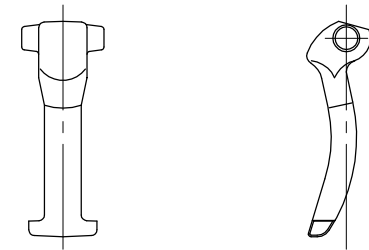


① ふた・受枠平面図

断面図



② カバー、フレーム断面図



③ 蝶番金物詳細図

【設置場所例】

設置場所	民地内の車両が通行する場所
------	---------------

① ふた	FCD700
② 枠	FCD600
③ 蝶番	FCD600

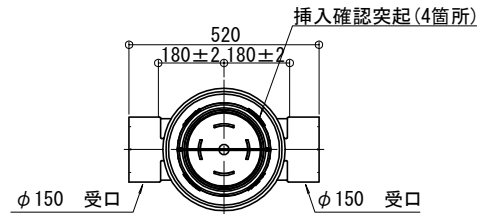
注1. 本図面はメーカーを指定するものではない。
 本市の認定を受けている業者の人孔蓋を使用すること。
 道路上に設置する場合は、小口径耐スリップ型T-25を使用すること。

図名	公共樹蓋標準構造図（保護鉄蓋）参考図	制定	2022.6
		改訂	2023.4

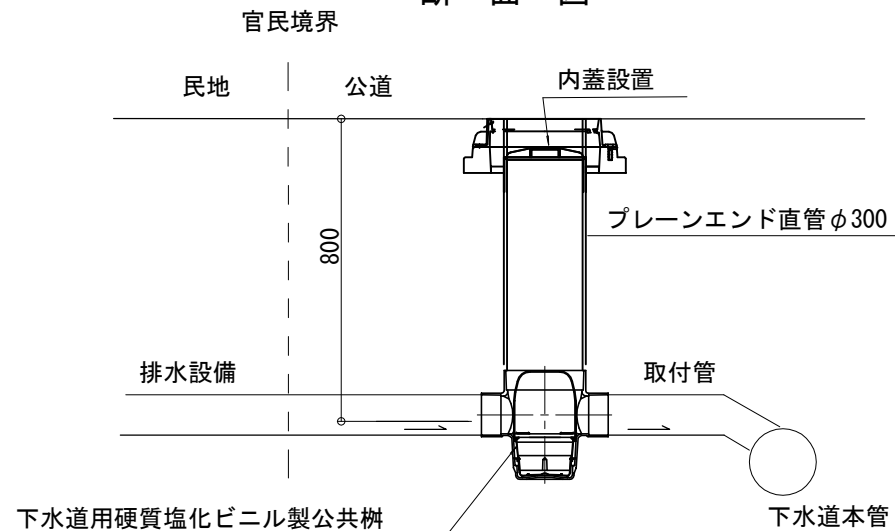
公共枡蓋及び公共枡標準構造図(特定枡) (下水道用硬質塩化ビニル製公共枡)

※特定枡は、当該事業場の一般雑排水系統の排水設備から独立し、特定施設からの排水系統の排水設備が接続する公共枡をいう。

平面図



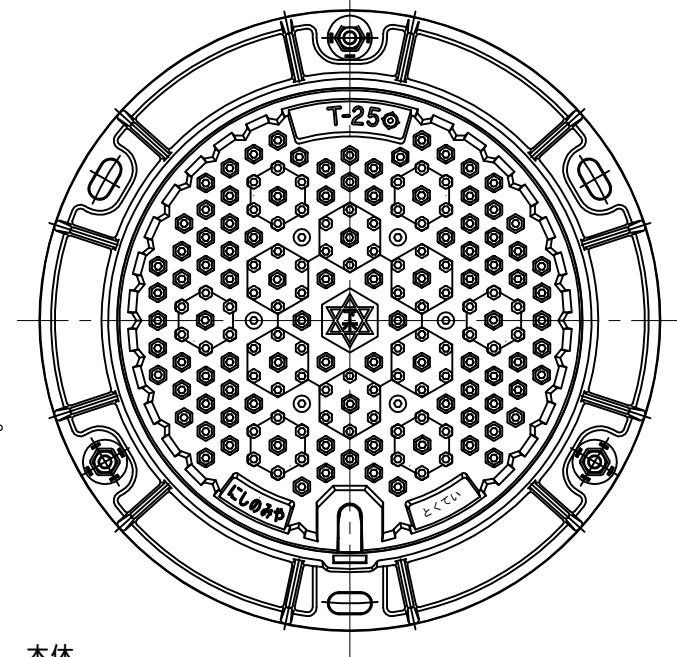
断面図



※φ150 塩ビ管布設例

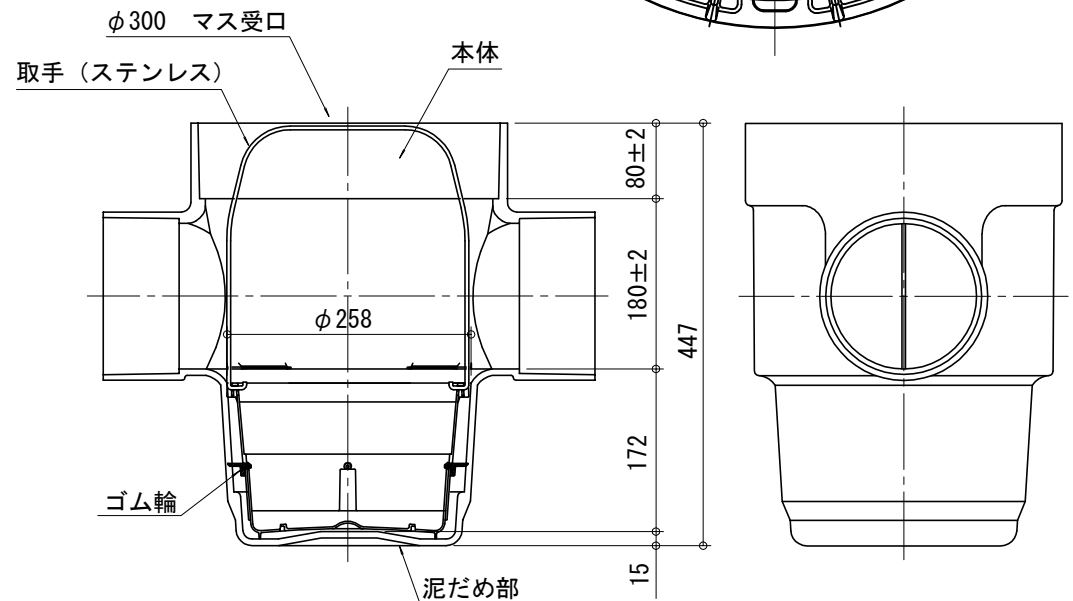
- 注1. 排水設備の配管は底付とする。
- 注2. 設置位置は原則公道上とする。

カバー平面図



”とくてい”と表記した鉄蓋を使用する。
鉄蓋の構造については「人孔蓋標準構造図(小口径耐スリップ型)T-25 参考図」を参照。

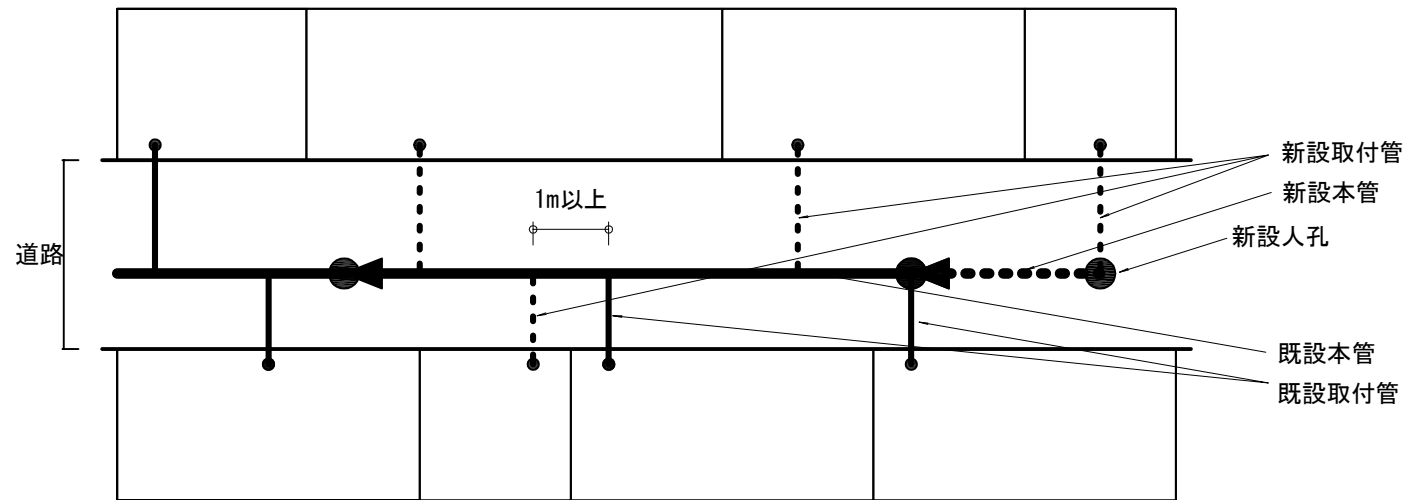
枡断面図



図名	公共枡蓋及び公共枡標準構造図(特定枡)	制定	2022.6
		改訂	2023.4

公共柵取付管等標準布設図（1）

[標準的な接続方法]



- 注 1. 公共柵取付管の設置間隔は、1m以上とする
 注 2. 官民境界から柵の中心までの距離は、1m以内とする
 注 3. 道路上の人孔は、原則、1号人孔以上とする
 注 4. 本管を延伸する場合は、道路管理者等と本管の布設方向や接続角度などを協議・調整すること
 注 5. 公共柵設置基準要綱第9条の(1)接続方法「ア標準的な接続方法」
 注 6. 必要に応じて、既設の最上流人孔の撤去を行うこと。

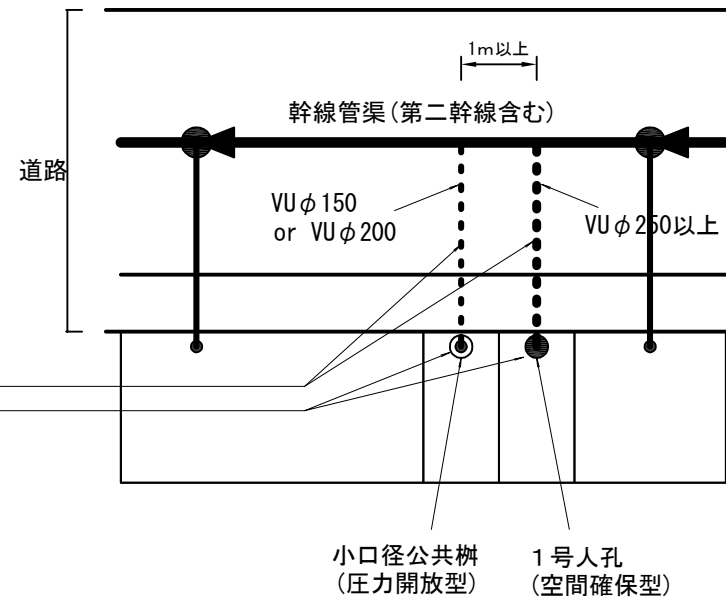
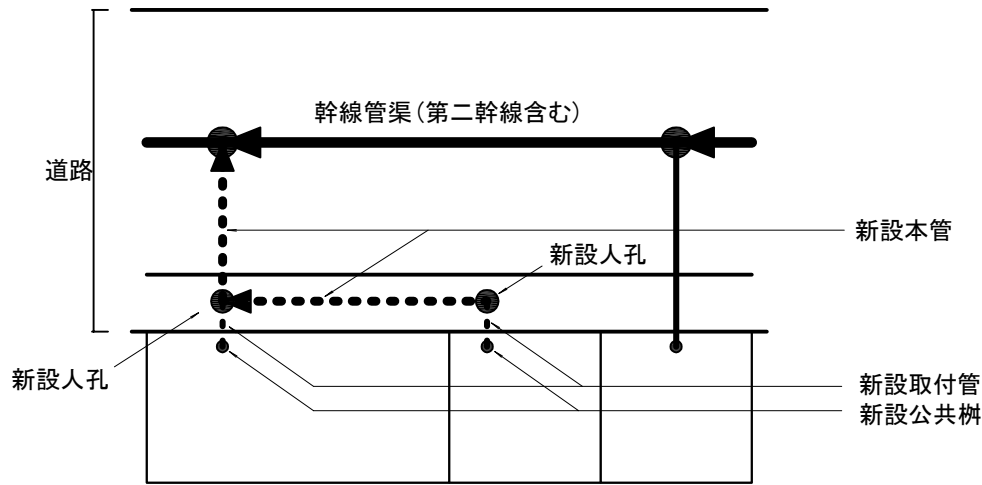
図名	公共柵取付管等標準布設図（1）	制定	2022. 6
		改訂	-

公共樹取付管等標準布設図（2）

合流区域

[下水道幹線管渠へ接続する場合]

[下水道幹線管渠へ接続する場合（幹線管渠の土被り3m未満のみ）]

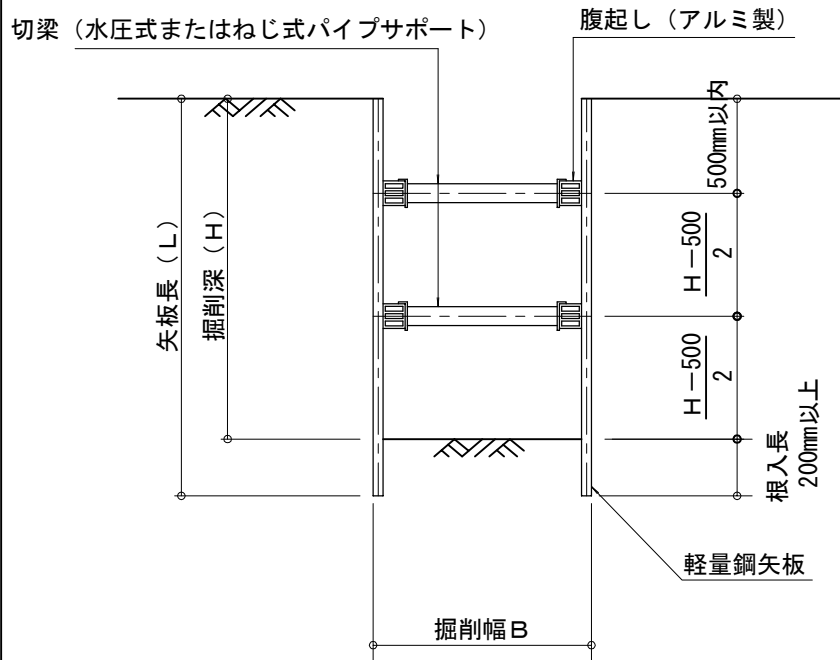


- 注 1. 公共樹取付管の設置間隔は、1m以上とする
- 注 2. 官民境界から樹の中心までの距離は、1m以内とする
- 注 3. 道路上の人孔は、原則、1号人孔以上とする
- 注 4. 本管を延伸する場合は、道路管理者等と本管の布設方向や接続角度などを協議・調整すること
- 注 5. 幹線管渠(第二幹線含む)へ直接接続する場合は、圧力開放または空間確保が可能な構造の公共樹とすること
- 注 6. 幹線管渠(第二幹線含む)へ直接接続する場合は、必要に応じて、圧力開放が可能な構造の排水設備を設けること
- 注 7. 圧力開放蓋は、常時、人や車が通行する場所および人や物が踏むような場所に設置してはならない
- 注 8. 公共樹設置基準要綱第9条の(1)接続方法「イ合流区域における幹線管渠へ接続する場合」

図名	公共樹取付管等標準布設図（2）	制定	2022. 6
		改訂	-

軽量鋼矢板土留工標準図

軽量鋼矢板建込標準断面図



矢板種別	掘削深 (H) (m)	矢板長 (L) (m)	平均厚 (t) (cm)	腹起し材	切梁材	支保段数 (段)	備考
軽量鋼矢板	$1.50 \leq H \leq 1.80$	2.00	5.0	アルミ製	水圧式	1	建込矢板
	$1.80 < H \leq 2.30$	2.50	5.0			2	
	$2.30 < H \leq 2.80$	3.00	5.0			2	
	$2.80 < H \leq 3.00$	3.50	5.0			2	

- 注1. 軽量鋼矢板の適用範囲は掘削深H=3.00mまでを標準とする。
- 注2. 軽量鋼矢板はⅡ型を標準とする。
- 注3. 掘削幅Bは、B=2.54mまでを標準とする。
- 注4. 根入長は0.20m以上とすること。

図名	軽量鋼矢板土留工標準図	制定	2013.6
		改訂	2022.6